

参 考 資 料

1. 市民アンケート調査結果
2. 団体アンケート調査結果
3. 各課の主な生涯学習講座等の状況
4. 計画の策定経過
5. 浦添市まちづくり生涯学習推進協議会委員名簿
6. 用語解説

まちづくり生涯学習に関する市民アンケート調査結果

1 調査の概要

調査概要

調査対象	満 20 歳以上の浦添市民 ・無作為抽出 1,200 人及び任意の WEB アンケート協力者
無作為抽出 抽出方法	浦添市の住民基本台帳から抽出
調査方法	無作為抽出者：郵送配布/郵送回収及び WEB アンケート回収 任意の協力者：WEB アンケート回収
調査期間	令和 3 年 11 月 11 日～令和 3 年 12 月 31 日
有効回答数	525 件

結果の見方

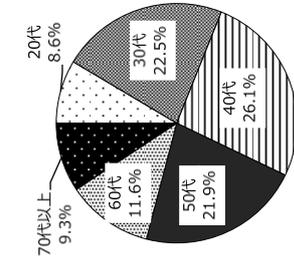
- ▶ 表・グラフに付加されている「n」は質問に対する回答者数を表しています。
- ▶ 結果数値 (%) は、少数第 2 位を四捨五入しており、内訳の合計が 100%にならない場合があります。
- ▶ 複数回答の場合、回答者数に対する割合を示しているため、構成比の合計が 100%を超えています。
- ▶ 表・グラフの中で、選択肢の文章が長いものについては省略して載せている場合があります。

2 調査結果

回答者の属性

A：回答者の年齢

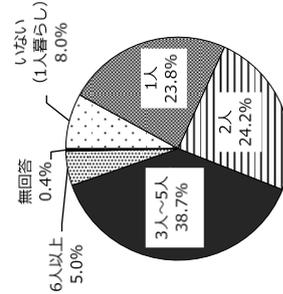
- 40代が 26.1% (137 人) で最も多く、次いで 30代 22.5% (118 人) となっている。



カテゴリ	件数	(全体)%
20代	45	8.6
30代	118	22.5
40代	137	26.1
50代	115	21.9
60代	61	11.6
70代以上	49	9.3
無回答	0	0.0
合計 (n)	525	100

B：一緒に住んでいる人の数

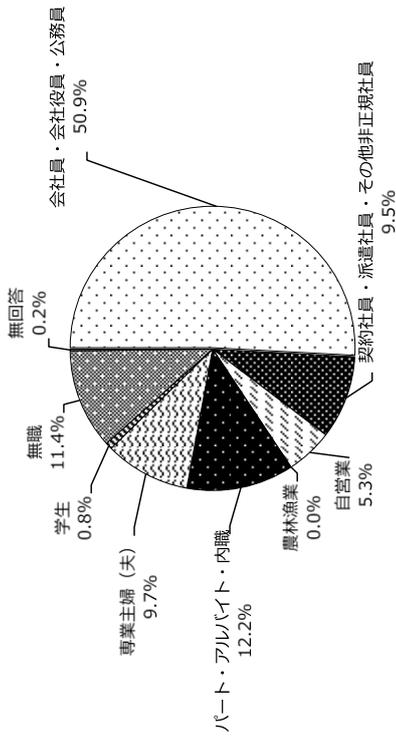
- 「3人～5人」が 38.7% (203 人) で最も多い。次いで、「2人」24.2% (127 人)、「1人」23.8% (125 人) となっている。



カテゴリ	件数	(全体)%
いない (1人暮らし)	42	8.0
1人	125	23.8
2人	127	24.2
3人～5人	203	38.7
6人以上	26	5.0
無回答	2	0.4
合計 (n)	525	100

C 職業

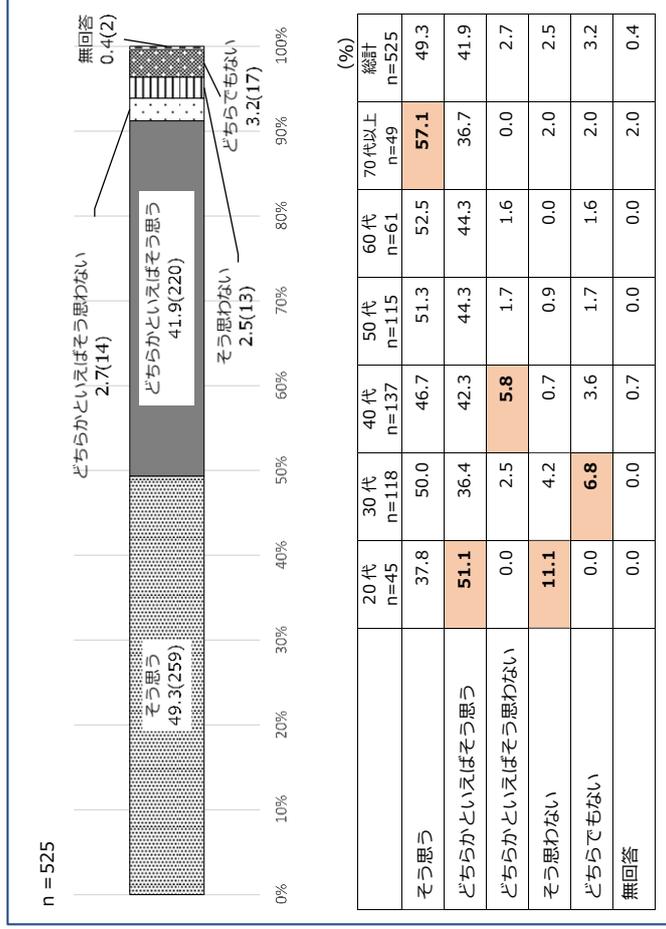
- 「会社員・会社役員・公務員」が50.9% (267人) で最も多い。次いで、「パート・アルバイト・内職」12.2% (64人)、「無職」11.4% (60人) となっている。



◆ 市民活動について

問1：本市のまちづくりにとって、「市民活動」が重要だと思うか

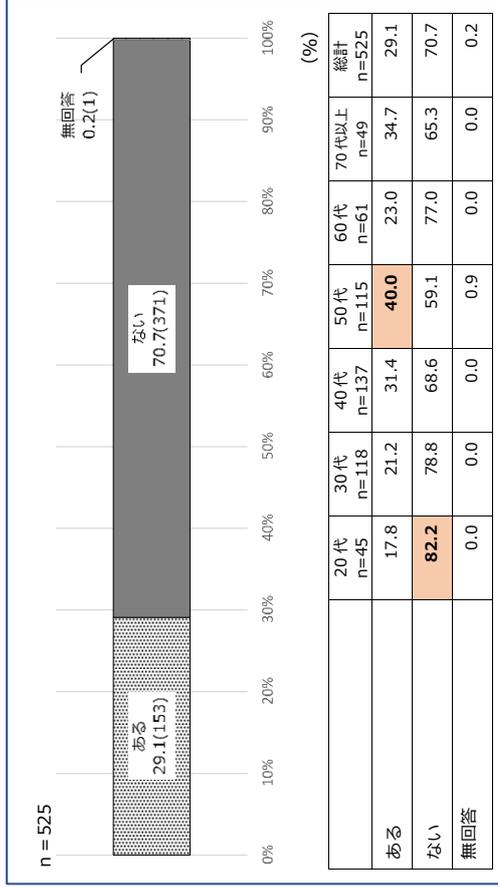
- 「そう思う」が49.3% (259人)、「どちらかといえばそう思う」が41.9% (220人)と、9割以上が重要だと感じている。
- 年代別では、70代以上が最も「市民活動」の重要性を感じており、20代ではその傾向が低いことがうかがえる。



カテゴリ	件数	(全体)%
会社員・会社役員・公務員	267	50.9
契約社員・派遣社員・その他非正規社員	50	9.5
自営業	28	5.3
農林漁業	0	0.0
パート・アルバイト・内職	64	12.2
専業主婦 (夫)	51	9.7
学生	4	0.8
無職	60	11.4
無回答	1	0.2
合計 (n)	525	100

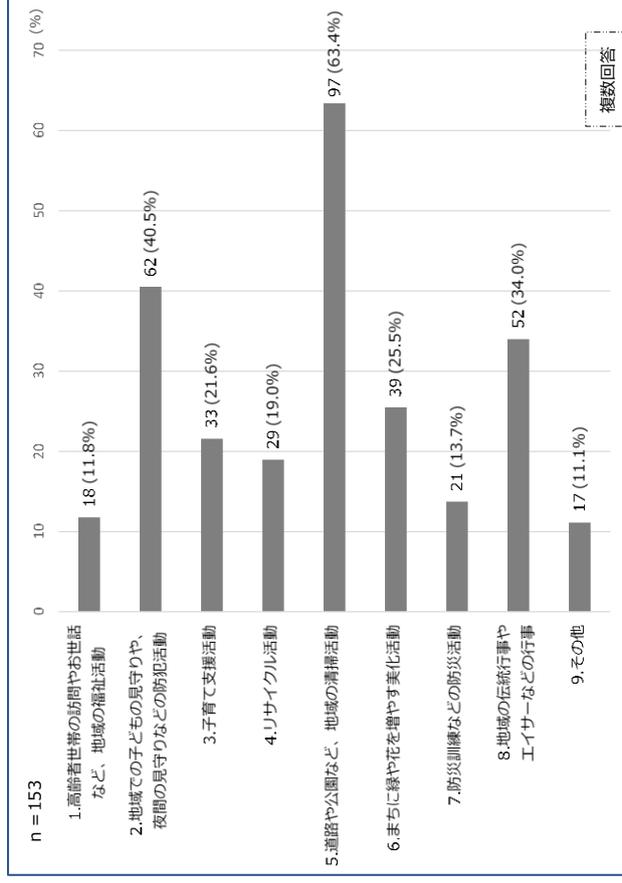
問2：市民活動に参加したことはあるか

- 「ない」が70.7% (371人)、「ある」が29.1% (153人)となっている。
- 年代別にみると、「ある」は50代が最も多く、「ない」は20代で8割以上となっている。



問3：「市民活動」に参加したことがある方のみ回答。どのような「市民活動」に参加したか。

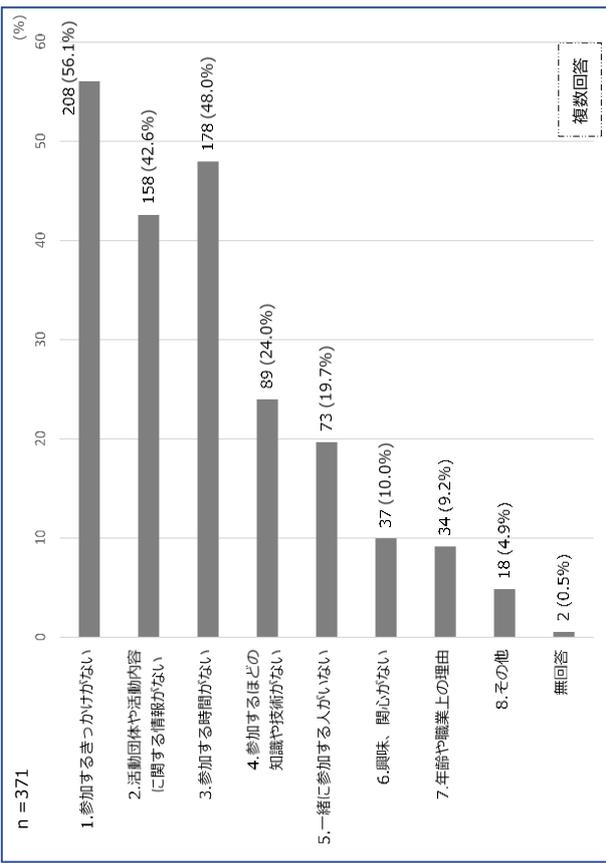
- 最も多い「市民活動」は、「5.道路や公園など、地域の清掃活動」63.4% (97人) となっており、次いで「2.地域での子どもの見守りや、夜間の見守りなどの防犯活動」40.5% (62人)、「8.地域の伝統行事やエイサーなどの行事」34.0% (52人) となっている。
- 年代別にみると、40代~50代の参加が他の年代と比べて高くなっている。



	20代 n=8	30代 n=25	40代 n=43	50代 n=46	60代 n=14	70代以上 n=17	総計 n=153
1. 高齢者世帯の訪問やお世話など、地域の福祉活動	50.0	8.0	7.0	6.5	21.4	17.6	11.8
2. 地域での子どもの見守りや、夜間の見守りなどの防犯活動	12.5	32.0	48.8	41.3	42.9	41.2	40.5
3. 子育て支援活動	0.0	32.0	23.3	26.1	14.3	5.9	21.6
4. リサイクル活動	12.5	12.0	25.6	13.0	28.6	23.5	19.0
5. 道路や公園など、地域の清掃活動	62.5	56.0	67.4	63.0	57.1	70.6	63.4
6. まちに緑や花を増やす美化活動	37.5	24.0	16.3	23.9	21.4	52.9	25.5
7. 防災訓練などの防災活動	37.5	12.0	9.3	10.9	21.4	17.6	13.7
8. 地域の伝統行事やエイサーなどの行事	50.0	36.0	34.9	32.6	14.3	41.2	34.0
9. その他	37.5	8.0	11.6	10.9	7.1	5.9	11.1

問 4：「市民活動」に参加したことがない方のみ回答。参加したことがない理由について。

- 「参加するきっかけがない」が 56.1% (208 人) で最も多くとなっている。次いで、「参加する時間がない」 48.0% (178 人)、「活動団体や活動内容に関する情報がない」 42.6% (158 人) となっている。
- 年代別では、20 代は「参加するきっかけがない」が 7 割を超えており、他の年代に比べ高くなっている。「活動団体や活動内容に関する情報がない」は 40 代が最も高く、「参加する時間がない」は 50 代で最も高い。



	20代 (n=37)	30代 (n=93)	40代 (n=94)	50代 (n=68)	60代 (n=47)	70代以上 (n=32)	総計 (n=371)
1. 参加するきっかけがない	70.3	60.2	59.6	41.2	55.3	50.0	56.1
2. 活動団体や活動内容に関する情報がない	40.5	43.0	48.9	44.1	36.2	31.3	42.6
3. 参加する時間がない	62.2	53.8	41.5	63.2	44.7	6.3	48.0
4. 参加するほどの知識や技術がない	27.0	26.9	26.6	23.5	19.1	12.5	24.0
5. 一緒に参加する人がいない	37.8	22.6	17.0	17.6	12.8	12.5	19.7
6. 興味、関心がない	18.9	12.9	5.3	7.4	6.4	15.6	10.0
7. 年齢や職業上の理由	2.7	5.4	3.2	13.2	19.1	21.9	9.2
8. その他	0.0	0.0	4.3	4.4	12.8	9.4	4.9
無回答	0.0	1.1	0.0	0.0	0.0	3.1	0.5

9. その他の回答

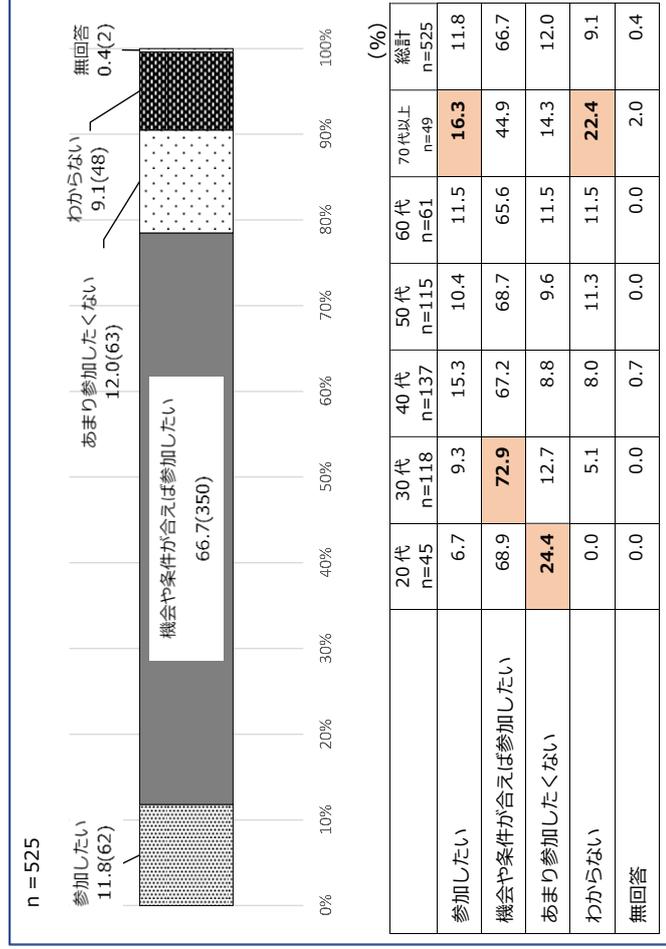
- 子供会の指導
- 自治会の清掃活動
- 自治体のお手伝い
- 学校の美化活動
- フードドライブ
- ボランティア活動
- 自治会活動には意識的に参加しています。
- 冨近辺の森の伐採
- 講演会や学習会の主催
- 災害時 (コロナ含む) などの突発的な支援
- 通学路の旗当番
- 教育
- 川の清掃
- 子供とこいのぼり
- 登校見守り、夜間パトロール、道路清掃
- こども食堂の食糧支援
- また学生なので、地域の子供達と遊んだりエイサー指導をしていました。
- 自治会活動、登校時の交通安全ハタフリ、絵本の読み聞かせ、CGG 清掃
- 自治会活動、ちゅらまちサポーター、JC 活動、クリーンデー in 浦添、CGG 等
- 留学生支援 (日本での受入支援、日本からの派遣支援)

8.その他の回答

● 関心を持たれるような情報発信が必要
● 子供が在宅看護で寝たきりのため。
● 大事なことは思うが人と関わるのが億劫
● 体調不良
● 脳そうそくの後遺症
● 腰痛のため
● 育児教育に忙しい
● 70才までは仕事していましたが時間なしの為
● 参加したい活動がない
● 健康面
● 育児中で、なかなかタイミングがあわない
● 病気の為。親の介護の為。
● 退職後に行いたいと思います。
● 人づきあいが苦手
● 今はコロナ禍でもあり、不安もあります
● 身体障害があるため
● 活動している事を知らない
● 人見知りな為、団体の性格が気になる
● 人間関係が煩わしい。ある個所を1人でやるならよい。
● そもそも市民活動とは？それを街づくりに活かすとは？
● 市民活動とはどういったことでしょうか。それすら知らず申し訳ないです。
● 選択肢3 選択できませんでした
● 仕事がついついので、休みは疲労回復に当ててますから
● メンタルの病気のため、大勢と関わることに不安がある
● なかなか難しいと思いますが、こちらから情報を取りに行くのは難しいので、市の方で広告やメディアを利用してPRして頂きたいです。

問5：今後、「市民活動」に参加してみたいと思うか。

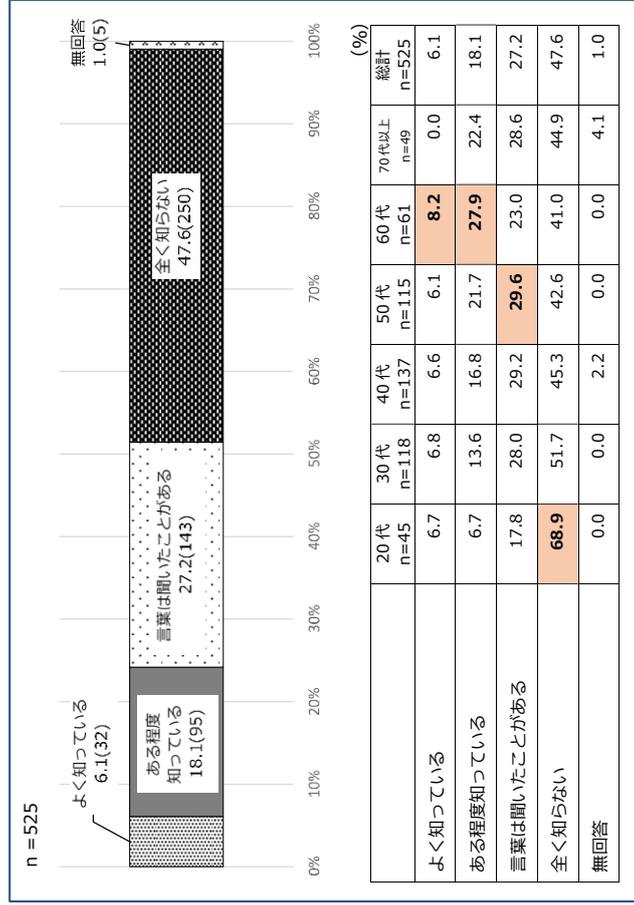
- 「参加したい」11.8% (62人)、「機会や条件が合えば参加したい」66.7% (350人)となっており、約8割が「市民活動」への参加に興味を示している。
- 年代別では、30代及び40代で、「参加したい」と「機会や条件が合えば参加したい」の合計が8割を超えており、他の年代と比較して「市民活動」への興味が高いことがうかがえる。
- 一方、20代は「あまり参加したくない」が2割を超えており、他の年代と比較して「市民活動」への興味が低いことがうかがえる。



◆ 市民協働のまちづくりについて

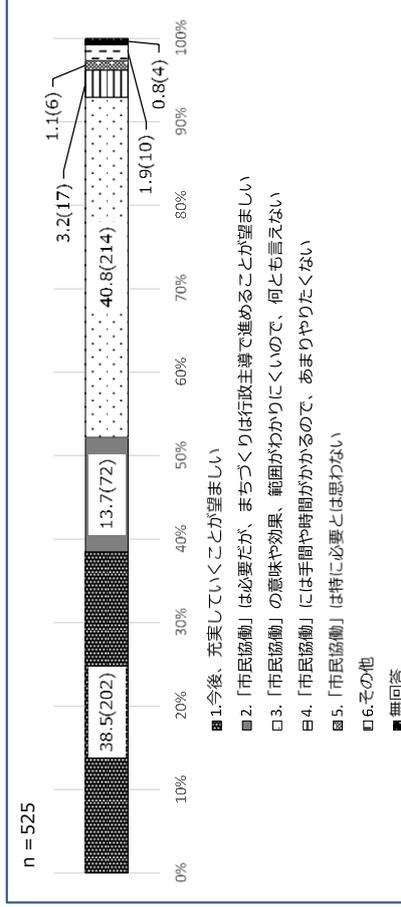
問6：「市民協働」という言葉を知っているか。

- 「市民協働」の言葉を知っている人は、「よく知っている」6.1% (32人)、「ある程度知っている」18.1% (95人)と、2割弱にとどまっている。
- 年代別では、最も知っている割合が高いのは60代、「全く知らない」の割合が高いのは20代となっている。



問7：「市民協働」によるまちづくりについてどのような考えか。

- 「3. 「市民協働」の意味や効果、範囲がわかりにくいので、何とも言えない」が40.8% (214人)と最も高く、次いで「1. 今後、充実していくことが望ましい」38.5% (202人)となっている。
- 年代別では、「2. 「市民協働」は必要だが、まちづくりは行政主導で進めることが望ましい」が60代で最も高く、「5. 「市民協働」は特に必要とは思わない」は20代で最も高くなっている。



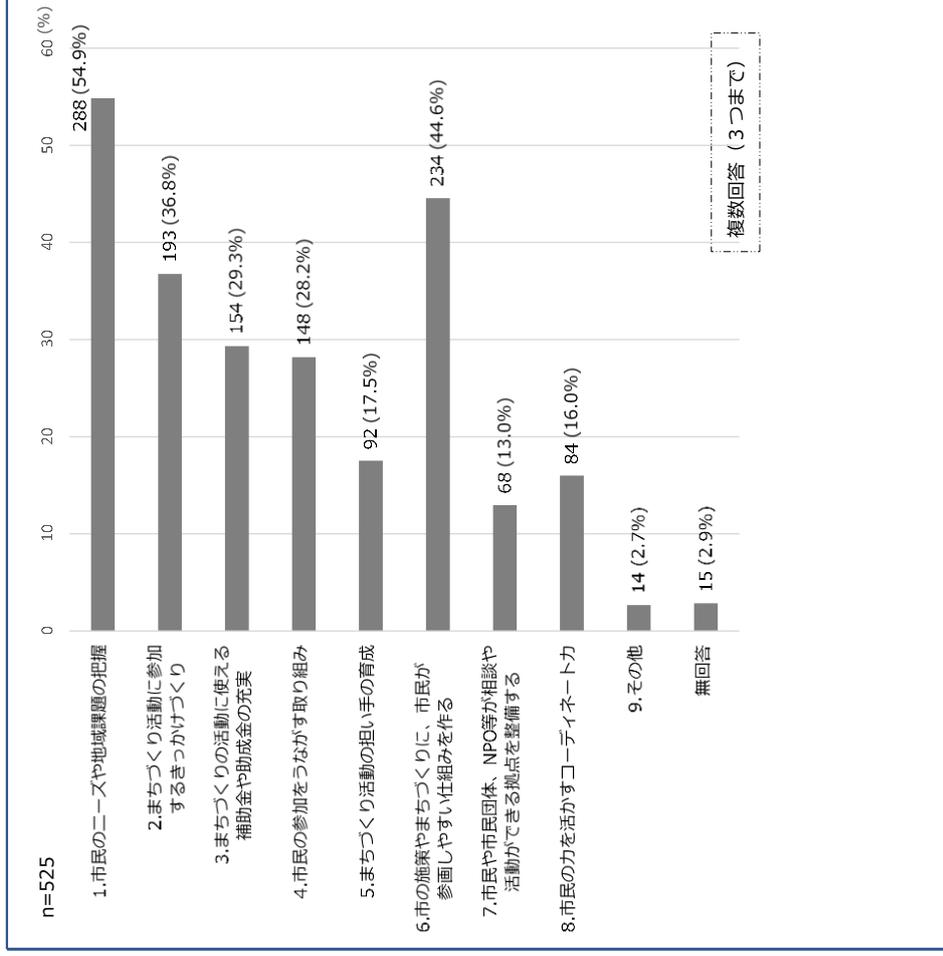
	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	総計
n	45	118	137	115	61	49	525
1. 今後、充実していくことが望ましい	35.6	38.1	40.9	41.7	37.7	28.6	38.5
2. 「市民協働」は必要だが、まちづくりは行政主導で進めることが望ましい	8.9	12.7	11.7	12.2	26.2	14.3	13.7
3. 「市民協働」の意味や効果、範囲がわかりにくいので、何とも言えない	44.4	40.7	43.8	40.9	32.8	38.8	40.8
4. 「市民協働」には手間や時間がかかるので、あまりやりたくない	2.2	3.4	2.2	0.9	3.3	12.2	3.2
5. 「市民協働」は特に必要とは思わない	4.4	2.5	0.7	0.0	0.0	0.0	1.1
6. その他	2.2	2.5	0.0	4.3	0.0	2.0	1.9
無回答	2.2	0.0	0.7	0.0	0.0	4.1	0.8

6. その他の回答

● 市民協同がわからない。
● 子育て支援
● 市民の意見を反映して、行政が実施してほしい
● 年齢により参加不可能
● 良く分からない（3件）
● 市民全員が理解を促されるのかわからないという疑問もあります！
● そもそも「市民協働」の内容がわからないのでお答えしかねる
● ボランティア活動を行政が支えるポトムアップ方式
● 市民協働でのまちづくりが望ましいが、それは行政が市民目線で対話ができること、すなわち行政の都合を押しつけないことに加え、市民の側にも一定のリテラシーが求められると考えます。よって、いきなり市民協働を推進するのではなく、浦添市のソーシャルキャピタルの現状などを踏まえた方が良いかと思えます。
● 1～5に当てはまる答えがなかったのもので、その他で回答します。市民協働は行政主導で進めることが望ましいとは思いません。しかし市民活動するうえで、市が市民・地域と手を携えて何をしたいのか、どんな協力を求めることの発信力が必要だと思います。その情報発信を市の主導というのか、回答項目に迷いました。
● 学校や地域のお手伝いできることは 参加したいが情報がわからない。もっとハードルを下げて たくさん参加できることがあればと思います。
● 市に全てお任せするより、市民の協力参加で出来る部分はやり、市にしかできないような仕事を市にはしてほしいが、近所の美化活動など、リーダーシップを取る人がいなく、ずっと気にはなっている
● まちづくりいいのかもしれませんが子育てしてる私からすると医療費助成や保育園の事などきちんと出来ない部分あるのにまちづくりをみんなやりまじょうは嫌です、改善策など出してくれないのに協力はしたくないです
● 那覇市の市民協働活動にも那覇市市民協働大使として参加させて頂いています。市職員が積極的に参加しています。浦添市は市民協働事業に市職員の参加が極端に少ないと実感しています。市職員の積極的な参加が無い限り、浦添市の市民協働は成功しないと思います。

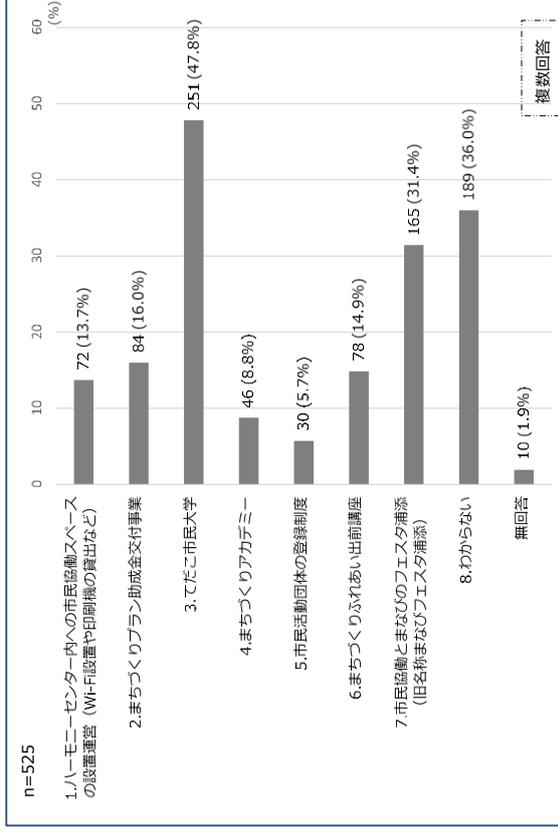
問 8：今後、市民協働のまちづくりを進めていくために、浦添市に期待すること。

- 「1.市民のニーズや地域課題の把握」が54.9%（288人）で最も多く、次いで「6.市の施策やまちづくり」に、市民が参画しやすい仕組みを作る」が44.6%（234人）となっている。
- 年代別では、上記二項目に加え、「2.まちづくり活動に参加するきっかけづくり」が40代で最も高くなっている。



問9：浦添市が実施する事業の認知度について

- 最も認知度が高いのが「3.てだこ市民大学」47.8% (251人)、次いで「7.市民協働とまなびのフェスタ浦添 (旧名称まなびフェスタ浦添)」31.4% (165人) となっている。
- 一方、「8.わからない」が36.0% (189人) となっている。
- 年代別では、50代の「6.まちづくりふれあい出前講座」の認知割合が他の年代と比べ約2倍高くなっている。また、20代の6割が「8.わからない」と回答しており、市民協働事業への興味の低さがうかがえる。



	20代 n=45	30代 n=118	40代 n=137	50代 n=115	60代 n=61	70代以上 n=49	総計 n=525
1.ハーモニセンター内への市民協働スペースの設置運営 (Wi-Fi設置や印刷機の貸出など)	4.4	15.3	12.4	14.8	26.2	4.1	13.7
2.まちづくりプラン助成金交付事業	8.9	15.3	19.7	17.4	16.4	10.2	16.0
3.てだこ市民大学	24.4	41.5	48.2	55.7	62.3	46.9	47.8
4.まちづくりアカデミー	8.9	9.3	8.0	13.0	8.2	0.0	8.8
5.市民活動団体の登録制度	4.4	5.1	5.8	7.0	6.6	4.1	5.7
6.まちづくりふれあい出前講座	6.7	13.6	12.4	25.2	14.8	8.2	14.9
7.市民協働とまなびのフェスタ浦添 (旧名称まなびフェスタ浦添)	15.6	28.0	40.9	40.0	24.6	16.3	31.4
8.わからない	60.0	45.8	30.7	27.0	29.5	34.7	36.0
無回答	4.4	0.8	1.5	1.7	1.6	4.1	1.9

	20代 n=45	30代 n=118	40代 n=137	50代 n=115	60代 n=61	70代以上 n=49	総計 n=525
1.市民のニーズや地域課題の把握	55.6	54.2	57.7	56.5	57.4	40.8	54.9
2.まちづくり活動に参加するきっかけづくり	40.0	36.4	48.2	30.4	34.4	20.4	36.8
3.まちづくりの活動に使える補助金や助成金の充実	37.8	35.6	21.9	33.0	31.1	16.3	29.3
4.市民の参加をうながす取り組み	17.8	24.6	28.5	27.8	44.3	26.5	28.2
5.まちづくり活動の担い手の育成	8.9	17.8	13.9	23.5	14.8	24.5	17.5
6.市の施策やまちづくりに、市民が参画しやすい仕組みを作る	33.3	43.2	51.8	44.3	39.3	44.9	44.6
7.市民や市民団体、NPO等が相談や活動ができる拠点を整備する	13.3	17.8	7.3	11.3	18.0	14.3	13.0
8.市民の力を活かすコーディネート力	13.3	15.3	18.2	20.9	14.8	4.1	16.0
9.その他	2.2	1.7	3.6	2.6	3.3	2.0	2.7
無回答	4.4	2.5	0.7	0.9	1.6	14.3	2.9

9.その他の回答

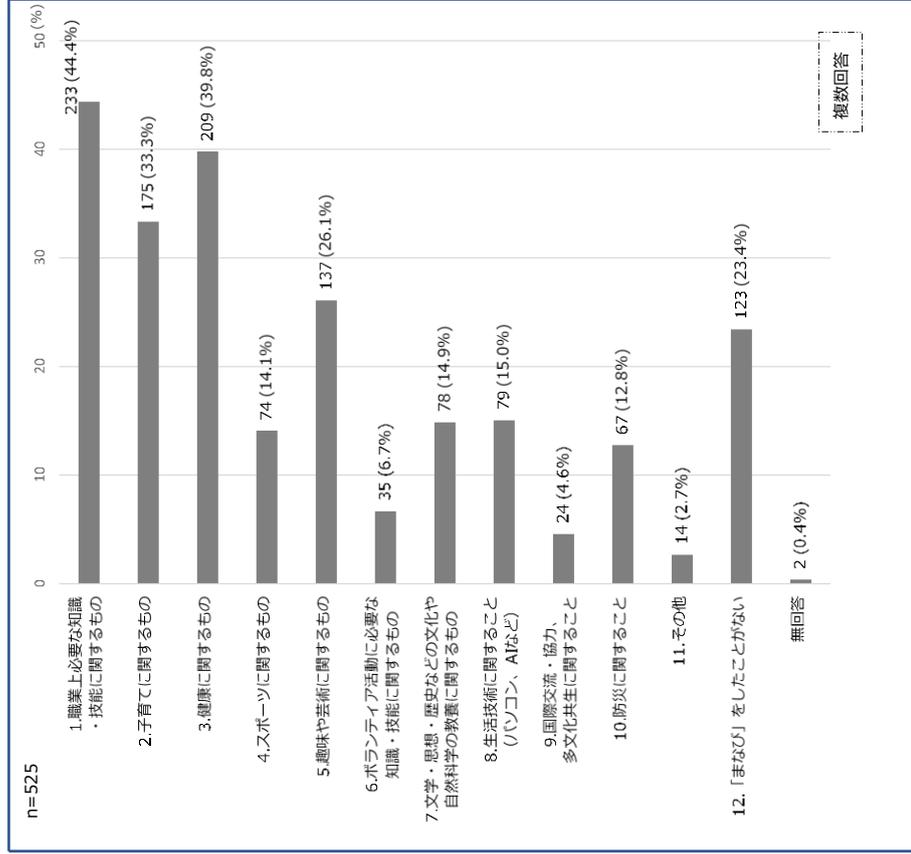
- ない
- 自然を大切に
- 参加の意思がある人へのサポート体制
- 問6と同じ答え (問6：そもそも「市民協働」の内容がわからないのでお答えし兼ねる)
- 牧港補給基地が返還された時、今後どのように市民協働のまちづくりは、積極的にすすめるか。
- 市民協働のまちづくりは、積極的にすすめるか。
- 市職員や市民のファシリテーター力を高めて、市職員と市民と一緒に市民協働を取り組む。
- 保育所(園)を増やして欲しい。企業主導型でもいいので増やして欲しいです。預けないと働けないのでぜひ市民協働で解決できないか話し合ってください。
- 市民団体は、気軽に集まる場所が必要。以前はハーモニセンターがその場所だった。いろんな団体が利用して、交流も盛んだった。お互いの悩みを話して参考にできた。職員のみでは地域づくりは無理。お互いの妥協点を歩み寄らないと、利用しないこととなる。市民団体が何があつたら役所の責任が怖いというだけで、団体の意義や地域の貢献度をもう少し理解して話し合いをしてほしい。どんな市民団体の拠点、居場所がなくなつてきた。市民団体は、ボランティアでしていることを忘れずにほしい。

- 隣接市町村との連携
- 行政にお願いしたい
- わからない (2件)
- どのような団体かわからないと参加しにくい。
- 子供の居場所づくりや、安全面での街のフイローなどもっとあれば参加したい。
- 住み続けやすさが地域への愛着 (原動力) につながる。よくしようと思う。

◆まなびについて

問 10：この1年くらいの間に行った「まなび」について

- 「1.職業上必要な知識・技能に関するもの」が44.4%（233人）と最も高く、次いで「3.健康に関するもの」39.8%（209人）、「2.子育てに関するもの」33.3%（175人）となっている。
- 一方、「12.「まなび」をしたことがない」は23.4%（123人）となっており、年代別では70代以上の割合が最も高い。



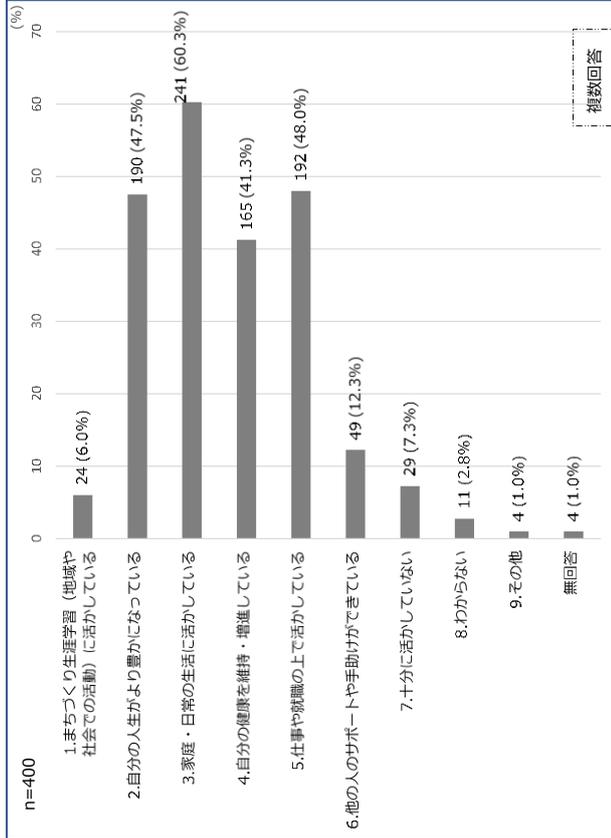
	20代 n=45	30代 n=118	40代 n=137	50代 n=115	60代 n=61	70代以上 n=49	総計 n=525
1.職業上必要な知識・技能に関するもの	51.1	55.1	54.0	41.7	31.1	8.2	44.4
2.子育てに関するもの	40.0	55.1	46.0	21.7	3.3	4.1	33.3
3.健康に関するもの	37.8	37.3	44.5	35.7	41.0	42.9	39.8
4.スポーツに関するもの	8.9	15.3	17.5	13.0	16.4	6.1	14.1
5.趣味や芸術に関するもの	28.9	29.7	27.7	26.1	19.7	18.4	26.1
6.ボランティア活動に必要な知識・技能に関するもの	4.4	8.5	5.1	9.6	4.9	4.1	6.7
7.文学・思想・歴史などの文化や自然科学の教養に関するもの	13.3	15.3	21.2	9.6	6.6	20.4	14.9
8.生活技術に関すること（パソコン、AIなど）	20.0	16.9	17.5	10.4	11.5	14.3	15.0
9.国際交流・協力・多文化共生に関すること	2.2	5.1	5.8	4.3	3.3	4.1	4.6
10.防災に関すること	8.9	10.2	16.8	13.0	16.4	6.1	12.8
11.その他	4.4	1.7	2.9	4.3	1.6	0.0	2.7
12.「まなび」をしたことがない	13.3	16.9	18.2	27.0	31.1	44.9	23.4
無回答	2.2	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.4

11.その他の回答

- 自然科学の実践に関すること
- 福祉
- 子育て コロナについて 保育について
- 資産形成に関するもの
- 英語教育
- 金融リテラシー
- 商工会の講演会
- コロナ禍で参加できていないが以前はしていた
- 社会問題（政治や行政）に関すること
- 心理学、ストレッチ、ストレス、犬の本
- 資産運用、つみたて NISA、ジュニア NISA、投資信託
- 図書館司書を通信教育で学んでいる。ちゆらまちサポーターに登録して活動しながら、他のサポーターから指導を賜り学んでいる。
- ネットや公園の史跡を見て回ったりしていますが、もっと古い時代からの歴史をまとめた冊子があれば読みたい。（既にある場合はすみません）

問 11: 「まなび」の活動で身につけた知識・技能の活用状況について

- 「3.家庭・日常生活に活かしている」60.3% (241人) が最も高く、次いで「5.仕事や就職の上で活かしている」48.0% (192人) となっている。
- 「1.まちづくり生涯学習 (地域や社会での活動) に活かしている」は6.0% (24人) にとどまっている。



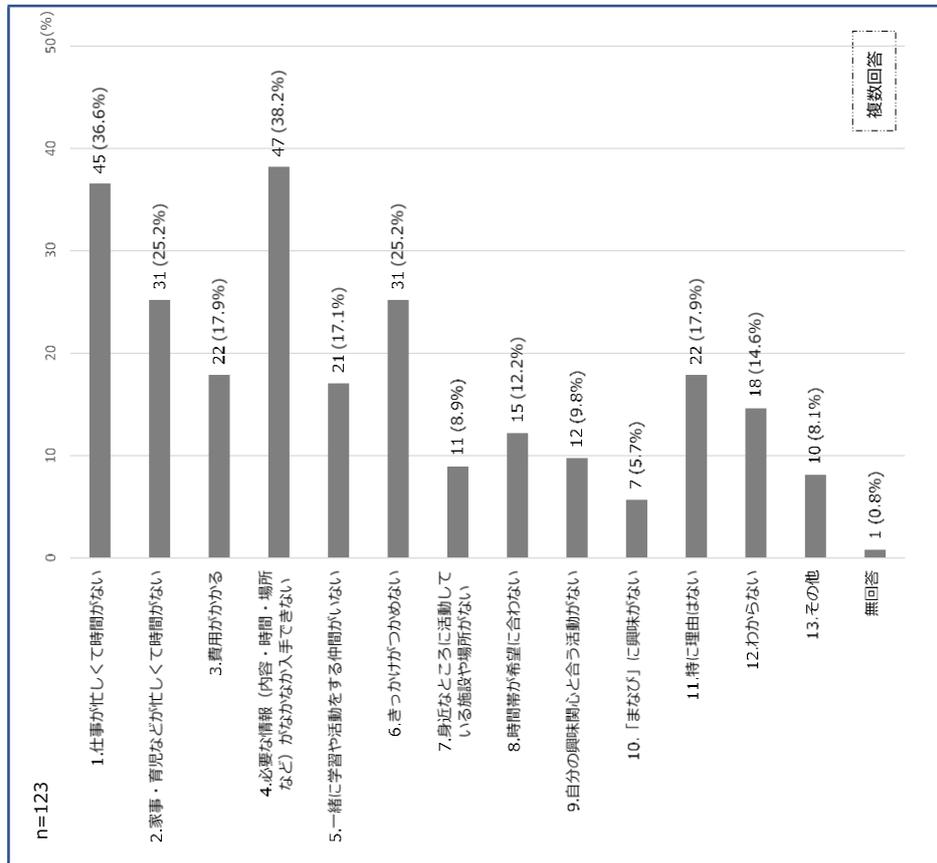
	20代 n=38	30代 n=98	40代 n=112	50代 n=84	60代 n=42	70代以上 n=26	総計 n=400
1.まちづくり生涯学習 (地域や社会での活動) に活かしている	2.6	6.1	5.4	7.1	7.1	7.7	6.0
2.自分の人生がより豊かになっている	57.9	52.0	42.9	44.0	42.9	53.8	47.5
3.家庭・日常生活に活かしている	65.8	77.6	66.1	42.9	42.9	46.2	60.3
4.自分の健康を維持・増進している	34.2	35.7	38.4	36.9	59.5	69.2	41.3
5.仕事や就職の上で活かしている	57.9	60.2	42.9	53.6	35.7	11.5	48.0
6.他の人のサポートや手助けができて	13.2	7.1	17.0	15.5	4.8	11.5	12.3
7.十分に活かしていない	2.6	0.0	8.9	17.9	2.4	7.7	7.3
8.わからない	5.3	2.0	2.7	3.6	2.4	0.0	2.8
9.その他	0.0	2.0	0.9	0.0	2.4	0.0	1.0
無回答	0.0	0.0	0.9	0.0	2.4	7.7	1.0

9.その他の回答

- 子育てやコロナについて周りに話したり、資料を作って情報共有した
- そこまで詳しく知らなくて子供にも自信を持って教えられていなく、もっと深く知りたい
- 浦添市職員から、那覇市の遊藝課課長や与那原町前城政策調整官の様な市民協働キャリアの誕生を心から願っています。
- スマホ・ゲーム依存の問題性をもっと普及する必要がある。10年後に問題が肥大化してしまう恐れあり。

問 12：「まなび」の活動を行っていない理由について

- 「4.必要な情報（内容・時間・場所など）がなかなか入手できない」が38.2%（47人）で最も多くなっている。次いで、「1.仕事が忙しくて時間がない」36.6%（45人）、「2.家事・育児などが忙しくて時間がない」と「6.きっかけがつかめない」が同率25.2%（31人）となっている。
- 年代別では、20代～50代でそれぞれ半数が「1.仕事が忙しくて時間がない」と回答している。また、30代は仕事のほかに「6.きっかけがつかめない」との回答が他の年代より多くなっている。



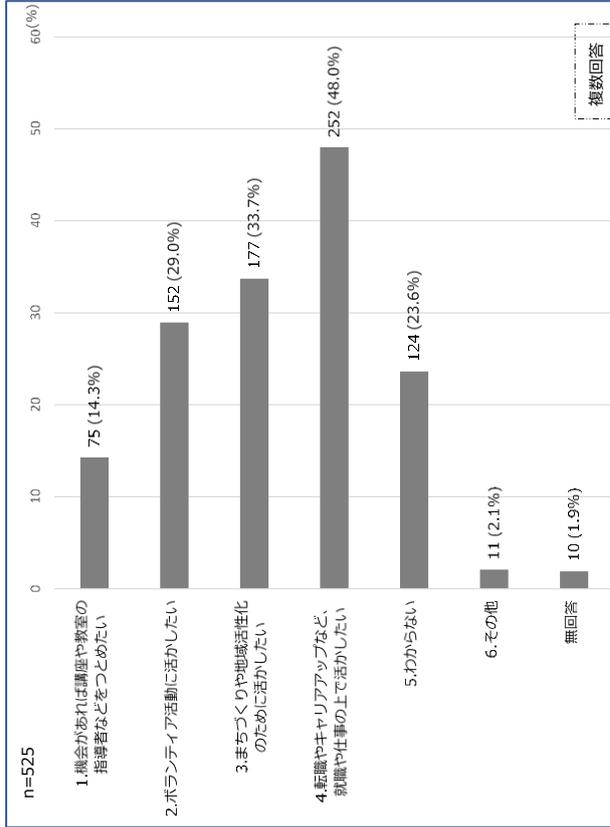
	20代 n=6	30代 n=20	40代 n=25	50代 n=31	60代 n=19	70代以上 n=22	総計 n=123
1.仕事が忙しくて時間がない	50.0	50.0	52.0	48.4	15.8	4.5	36.6
2.家事・育児などが忙しくて時間がない	50.0	60.0	36.0	19.4	5.3	0.0	25.2
3.費用がかかる	33.3	30.0	28.0	16.1	10.5	0.0	17.9
4.必要な情報（内容・時間・場所など）がなかなか入手できない	16.7	40.0	52.0	48.4	21.1	27.3	38.2
5.一緒に学習や活動をする仲間がいない	0.0	30.0	12.0	22.6	10.5	13.6	17.1
6.きっかけがつかめない	16.7	50.0	32.0	16.1	21.1	13.6	25.2
7.身近なところに活動している施設や場所がない	0.0	15.0	4.0	16.1	10.5	0.0	8.9
8.時間帯が希望に合わない	0.0	15.0	12.0	22.6	10.5	0.0	12.2
9.自分の興味関心と合う活動がない	0.0	5.0	8.0	19.4	10.5	4.5	9.8
10.「まなび」に興味がない	0.0	10.0	4.0	6.5	5.3	4.5	5.7
11.特に理由ははない	16.7	0.0	12.0	16.1	26.3	36.4	17.9
12.わからない	16.7	0.0	12.0	9.7	15.8	36.4	14.6
13.その他	0.0	5.0	4.0	6.5	21.1	9.1	8.1
無回答	0.0	5.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8

13.その他の回答

- コロナ感染が気になる
- 主人が認知症で目が離せなくなった
- 情報がない
- 親の介護。難病で障害もある為。
- 体調不良のため
- 転居したばかり
- 病気のため無理
- コロナ禍の不安
- 学びたいとは思いますが人付き合い等めんどくさい
- コロナもあり、なんとなく活動を制限している

問 13：今後、「まなび」で得た知識や技能をどのように活かしていきたいか。

- 「4.転職やキャリアアップなど、就職や仕事の上で活かしたい」が48.0% (252人) で最も多くなっている。次いで、「3.まちづくりや地域活性化のために活かしたい」33.7% (177人)、「2.ボランティア活動に活かしたい」29.0% (152人)となっている。
- 年代別では、40代の「3.まちづくりや地域活性化のために活かしたい」と感じる割合が他の世代より高く、まちづくりへの関心の高さがうかがえる。



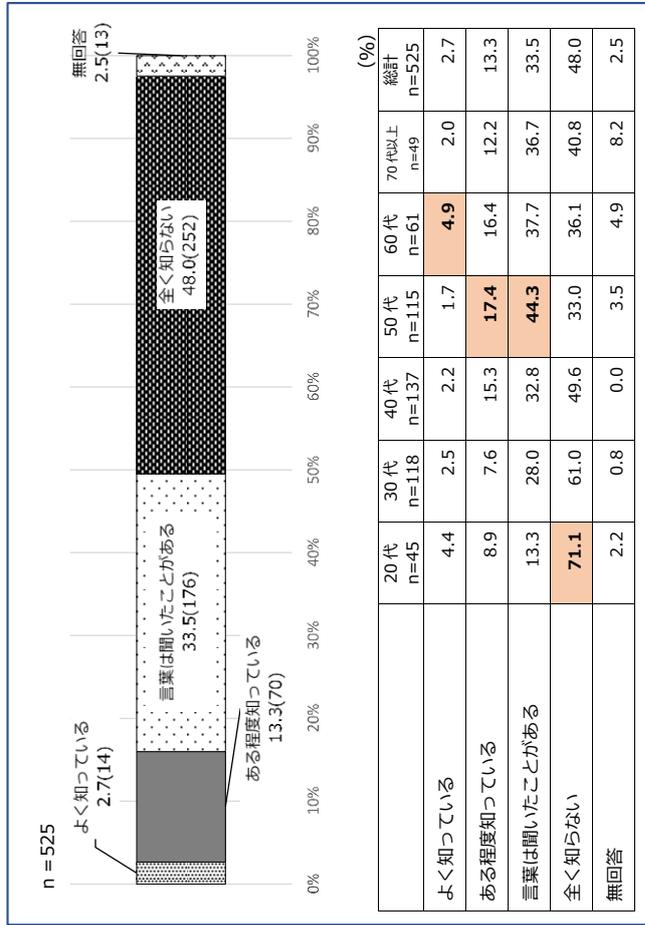
	20代 n=45	30代 n=118	40代 n=137	50代 n=115	60代 n=61	70代以上 n=49	総計 n=525
1. 機会があれば講座や教室の指導者などをつとめたい	15.6	13.6	17.5	15.7	8.2	10.2	14.3
2. ボランティア活動に活かしたい	20.0	22.9	29.2	34.8	37.7	26.5	29.0
3. まちづくりや地域活性化のために活かしたい	20.0	29.7	41.6	33.0	36.1	32.7	33.7
4. 転職やキャリアアップなど、就職や仕事の上で活かしたい	64.4	73.7	52.6	42.6	19.7	6.1	48.0
5. わからない	17.8	16.1	20.4	27.8	31.1	36.7	23.6
6. その他	0.0	0.0	1.5	1.7	6.6	6.1	2.1
無回答	4.4	0.0	0.0	0.9	1.6	12.2	1.9

6. その他の回答

- 人生の充実に活かしている。特に歴史は入口あって出口なしである。
- 60代であるが自分の好きな事をするため (スポーツ)
- すみません、自分の体のことです。
- 健康維持、体調管理
- 自己活用のみ
- 家族や友人達と、学びによって得た知識の共有
- 考えていない
- 親の介護
- 親もあまり詳しくなく私も詳しくないので子供は方言も喋れなくて継承していけない、子供が興味を持たないことに少し不安を感じます。沖縄が沖縄でなくなるような

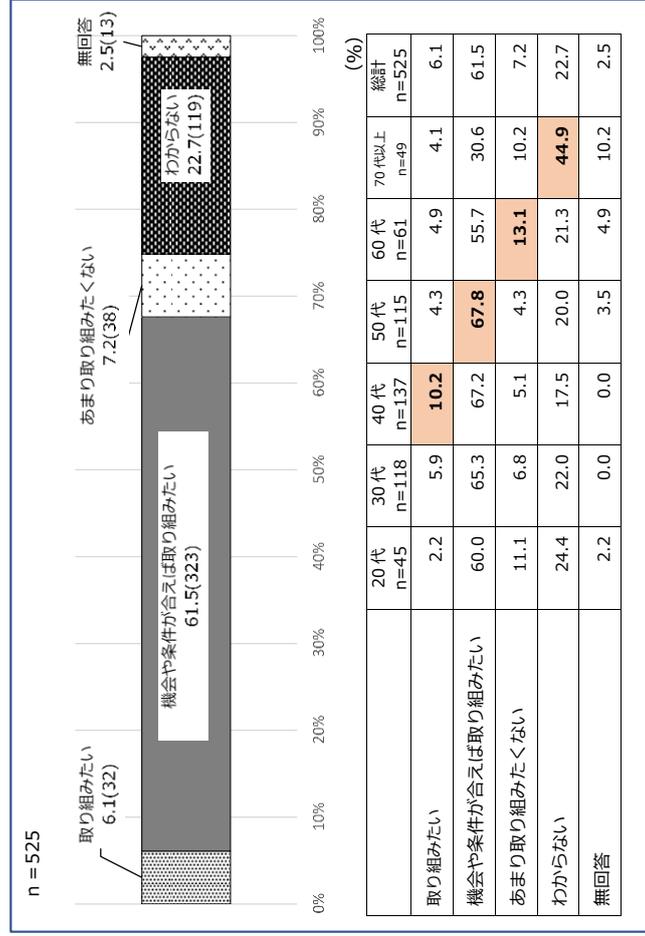
問 14：「まちづくり生涯学習」という言葉を知っているか。

- 「まちづくり生涯学習」の言葉を知っている人は、「よく知っている」2.7%（14人）、「ある程度知っている」13.3%（70人）と、合わせて16%にとどまっている。
- 年代別では、「よく知っている」の割合が高い世代は60代、「全く知らない」の割合が高い世代は20代となっている。



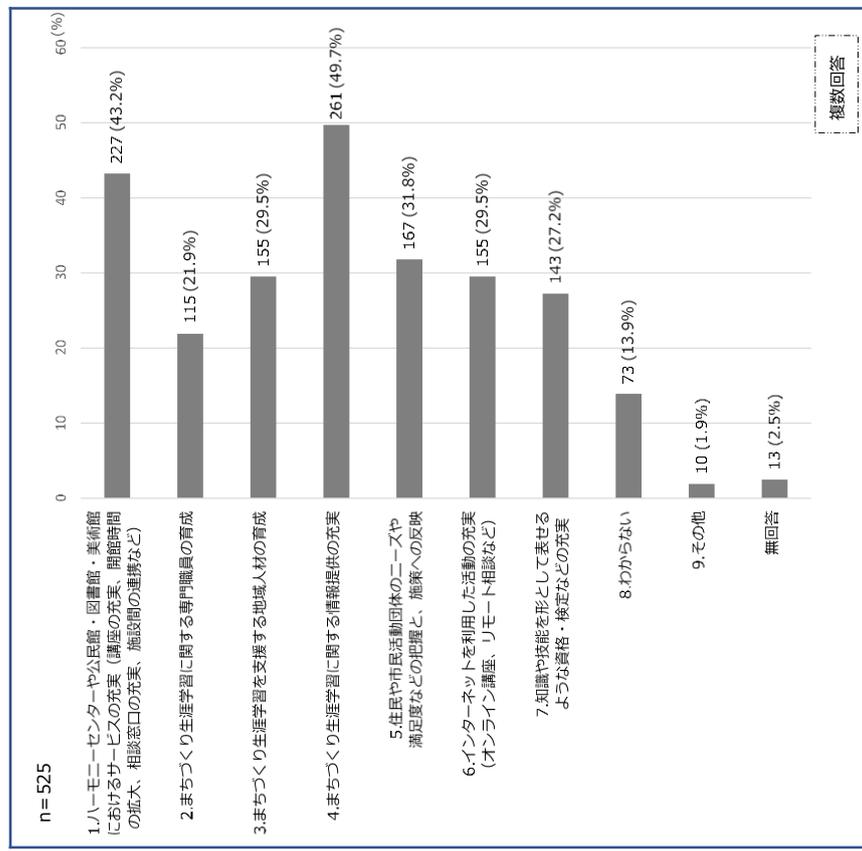
問 15：今後「まちづくり生涯学習」に取り組んでみたいと思うか。

- 「取り組むみたい」6.1%（32人）、「機会や条件が合えば取り組むみたい」61.5%（323人）となっており、約7割が「まちづくり生涯学習」への取り組みに興味を示している。
- 年代別では、40代は「取り組むみたい」が1割と、他の年代と比較して「まちづくり生涯学習」への関心が高いことがわかる。
- 一方、20代及び60代は「あまり取り組みたくない」との回答が他の年代に比べ多くっており、「まちづくり生涯学習」への関心が低いことがわかる。



問 16：まちづくり生涯学習を推進するため、浦添市はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。

- 「4.まちづくり生涯学習に関する情報提供の充実」が49.7% (261人) と最も多く、次いで、「1.ハーモニセンターや公民館・図書館・美術館におけるサービスの充実 (講座の充実、開館時間の拡大、相談窓口の充実、施設間の連携など)」43.2% (227人)、「5.住民や市民活動団体のニーズや満足度などの把握と、施策への反映」31.8% (167人) となっている。
- 年代別では、20代～50代で「6.インターネットを利用した活動の充実 (オンライン講座、リモート相談など)」との回答が多く、60代以上になるとその回答が低い傾向にある。



	20代 n=45	30代 n=118	40代 n=137	50代 n=115	60代 n=61	70代以上 n=49	総計 n=525
1.ハーモニセンターや公民館・図書館・美術館におけるサービスの充実 (講座の充実、開館時間の拡大、相談窓口の充実、施設間の連携など)	22.2	39.0	51.1	47.0	50.8	32.7	43.2
2.まちづくり生涯学習に関する専門職員の育成	24.4	23.7	19.7	27.8	14.8	16.3	21.9
3.まちづくり生涯学習を支援する地域人材の育成	20.0	28.0	34.3	35.7	23.0	22.4	29.5
4.まちづくり生涯学習に関する情報提供の充実	40.0	49.2	50.4	54.8	59.0	34.7	49.7
5.住民や市民活動団体のニーズや満足度などの把握と、施策への反映	28.9	38.1	29.2	39.1	27.9	14.3	31.8
6.インターネットを利用した活動の充実 (オンライン講座、リモート相談など)	33.3	33.1	34.3	34.8	19.7	4.1	29.5
7.知識や技能を形として表せるような資格・検定などの充実	28.9	35.6	27.7	32.2	14.8	8.2	27.2
8.わからない	15.6	11.9	8.8	13.9	16.4	28.6	13.9
9.その他	2.2	2.5	2.2	1.7	1.6	0.0	1.9
無回答	2.2	0.8	0.7	2.6	4.9	8.2	2.5

9.その他の回答

- 地域リーダーの把握
- 体験型や散策しながらツアー形式に史跡を巡り、お年寄りからの話を聞きたい。
- 年齢や障害による参加困難者のサポート体制技能、
- とくに、インターネット Zoom 参加などはとても良い
- そもそもわからない言葉なので答えようがない
- いつでも見てわかる動画 (育成用、指導者側の)。自治会単位での場所がある！サポート (主催) する側のサポート先がある→こうしたい→コロナにきくと進め方を教えてくれる、など
- うらそえプラスは重たくリンク切れもあり、閲覧しづらい。内容が充実しても見易くしないと足が遠く
- まちづくり生涯を行政の考え方で進めてうまくいくイメージがわからないので、専門家の意見等を参考に進めたほうが良いと思います。もし行政主体で行う場合は、ソーシャルキャピタルの先行研究などを参照した方が良いと思います。
- コロナ禍ではマイナス面もありましたが、zoom などのオンラインを活用して学びが広がりました。活動拠点も必要ですが、ネットワーク作りも対面とオンラインの双方の良さを掛け合わせて、工夫していただければと期待します

- 他の市の図書館と連携して近隣の市の図書館でも図書が借りられるようにしてほしい。用事があったて那覇市に出向く事が多く、那覇市の図書館の近くを通る事が多いが職場や学校が那覇市にあるわけではないので目の前に図書館があるにも関わらず、借りられず学びの機会が減っていると思う。（他の市と貸し借りの締結している市もあるので、締結しないのは誰得ですか）

まちづくり生涯学習に関する団体アンケート調査結果 (NPO・ボランティア団体・市民活動団体等対象)

1 調査の概要

調査概要

調査対象	浦添市で活動する市民活動団体等 51 件 (浦添市登録市民活動団体 27 団体 浦添市ボランティア・市民活動支援センター登録団体 24 団体)
調査方法	WEB アンケート/紙調査票の送付・回収
調査期間	令和 3 年 11 月 10 日～令和 3 年 12 月 31 日
有効回答数	27 件

結果の見方

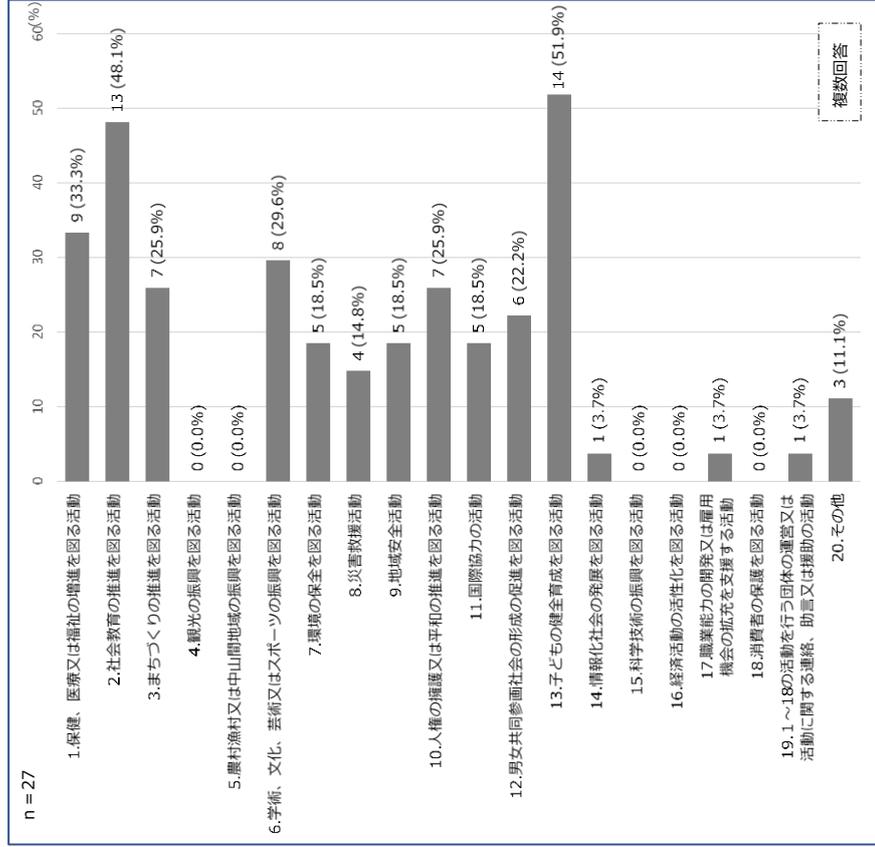
- ▶ 表・グラフに付加されている「n」は質問に対する回答者数を表しています。
- ▶ 結果数値 (%) は、少数第 2 位を四捨五入しており、内訳の合計が 100%にならない場合があります。
- ▶ 複数回答の場合、回答者数に対する割合を示しているため、構成比の合計が 100%を超えています。
- ▶ 表・グラフの中で、選択肢の文章が長いものについては省略して載せている場合があります。

2 調査結果

◆回答者属性

問 1：団体の活動の分野について

- 「13.子どもの健全育成を図る活動」が 51.9% (14 団体) で最も多くなっている。次いで、「2.社会教育の推進を図る活動」48.1% (13 団体)、「1.保健、医療又は福祉の増進を図る活動」33.3% (9 団体) となっている。



20.その他の回答

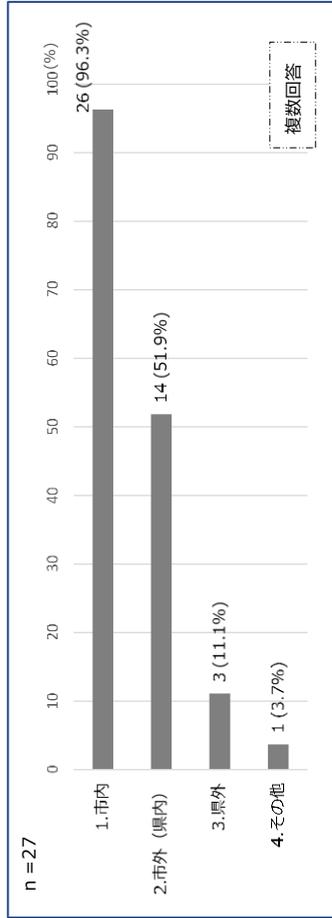
<ul style="list-style-type: none"> ● 車いすサッカー競技の定期練習会のほか、本島内の小中高・専門・大学への出張講座、地域イベント参加。
<ul style="list-style-type: none"> ● 母親をはじめとする子育てを行う者（家族・保育関係者）への支援
<ul style="list-style-type: none"> ● 保護司との連携

問 2. 主な活動内容について

<ul style="list-style-type: none"> ● 脊髄損傷及び重度障がい者の社会参加促進
<ul style="list-style-type: none"> ● 国際協力
<ul style="list-style-type: none"> ● 野外を教場として社会教育的内容や野外活動を行う団体
<ul style="list-style-type: none"> ● 新聞と広報うらそえの音訳
<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢者の見回り訪問、小中学校でのあいさつ
<ul style="list-style-type: none"> ● 定例会
<ul style="list-style-type: none"> ● 緑化活動、館内の資料整理・修理、レクリエーション（おはなし会等）への参加
<ul style="list-style-type: none"> ● 児童虐待(非行)防止活動
<ul style="list-style-type: none"> ● ダンスや歌などの芸能を子供たちを楽しんでもらう
<ul style="list-style-type: none"> ● 楽器の演奏を通して老若男女、たくさんの方へ癒やしを与える活動をしています
<ul style="list-style-type: none"> ● 社会教育・野外活動・奉仕活動
<ul style="list-style-type: none"> ● 国際交流を推進し多文化共生を市民や県民に広める
<ul style="list-style-type: none"> ● オークストラ演奏活動
<ul style="list-style-type: none"> ● 車いすサッカー競技の定期練習会
<ul style="list-style-type: none"> ● 健全育成活動につながる行事等の開催。地域防災避難訓練の実施など
<ul style="list-style-type: none"> ● おおむね 55 歳以上の方の就職支援
<ul style="list-style-type: none"> ● ボランティア
<ul style="list-style-type: none"> ● 浦添市内の青年会の支援、うらそえ青年祭の開催
<ul style="list-style-type: none"> ● 情報誌フリーマカジンの発行・親子参加イベントの企業コラボ開催
<ul style="list-style-type: none"> ● ・犯罪、非行防止活動 ・更生保護活動 ・地域の課題に沿った活動
<ul style="list-style-type: none"> ● 児童福祉（健全育成）施設の指定管理
<ul style="list-style-type: none"> ● 養蜂
<ul style="list-style-type: none"> ● 教育カウンセリング夏期講座、教育講演会、教育カフェ-養成講座、定例研修会、ニユースレター、構造的グループエンカウンター宿泊研修
<ul style="list-style-type: none"> ● 女性団体の活動や地域活動を通し、地域社会の発展に貢献する。 海外研修の体験を活かし、女性の地位向上、国際交流の促進に寄与する。
<ul style="list-style-type: none"> ● (1) 社員増強に関する活動 (2) 災害救護に関する活動 (3) 青少年赤十字の普及・育成に関する活動 (4) 献血推進及び血液センター業務の援助に関する活動 (5) 浦添地域保健衛生向上のための活動 (6) 救急法・水上安全法・家庭看護法の普及に関する活動 (7) 社会福祉施設及び医療施設看護法の普及に関する活動 (8) 老人福祉の向上のための活動 (9) 障がい福祉の向上のための活動
<ul style="list-style-type: none"> ● 無回答（2件）

問 3：活動している地域について

- 「1.市内」が96.3% (26 団体) で最も多くなっている。次いで、「2.市外 (県内)」51.9% (14 団体)、「3.県外」11.1% (3 団体) となっている。

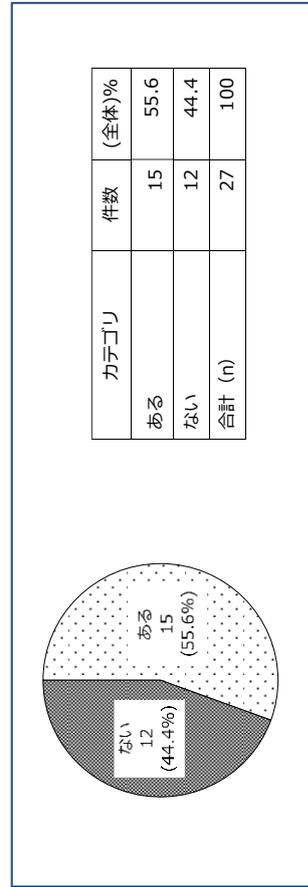


4.その他の回答

- 海外

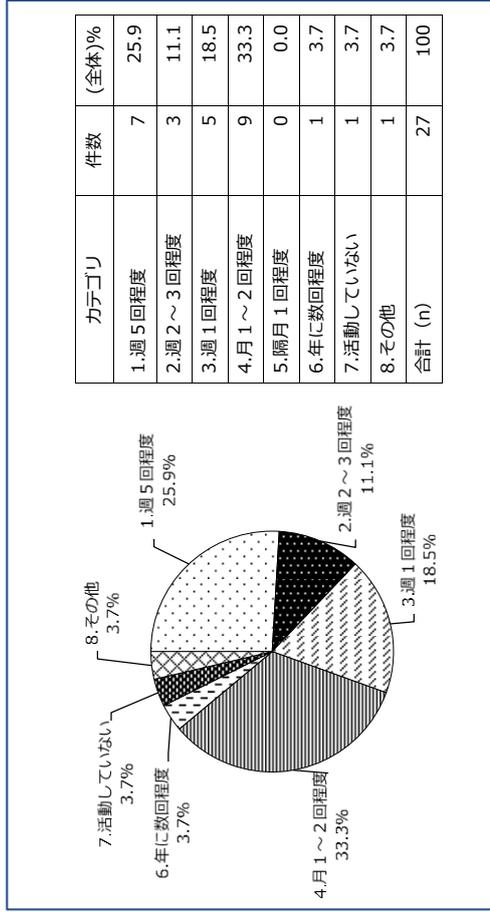
問 4：活動のための事務所について

- 「ある」が55.6% (15 団体)、「ない」は44.4% (12 団体) となっている。



問 5：活動状況 (活動・会合等) について

- 「4.月1～2 回程度」が33.3% (9 団体) と最も多くなっている。次いで、「1.週5 回程度」25.9% (7 団体)、「3.週1 回程度」18.5% (5 団体) となっている。



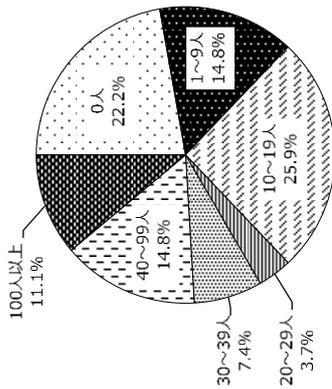
8.その他の回答

- 登録会員の活動可能日に随時活動する。

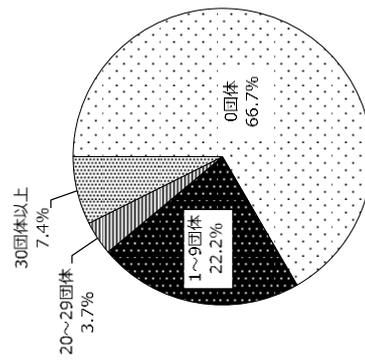
問 6：団体の会員数について

- 個人会員では「10～19人」が25.9%（7団体）で最も多く、次いで、「0人」22.2%（6団体）となっている。
- 法人（団体）会員では「0団体」が66.7%（18団体）で最も多く、次いで、「1～9団体」22.2%（6団体）となっている。

○個人会員

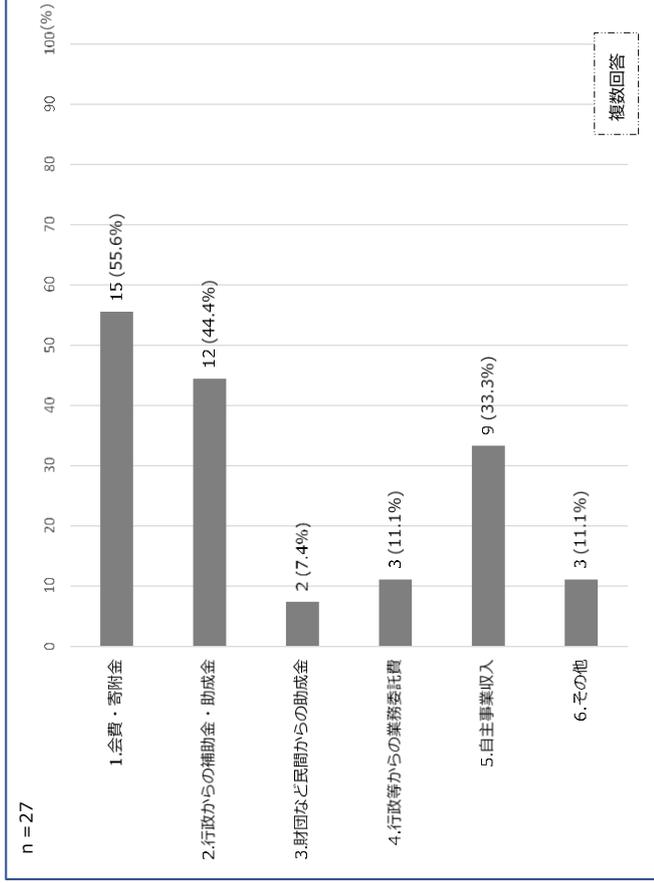


○法人（団体）会員



問 7：主な収入の内訳について

- 「1.会費・寄附金」が55.6%（15団体）で最も多く、次いで、「2.行政からの補助金・助成金」44.4%（12団体）、「5.自主事業収入」33.3%（9団体）となっている。



6.その他の回答

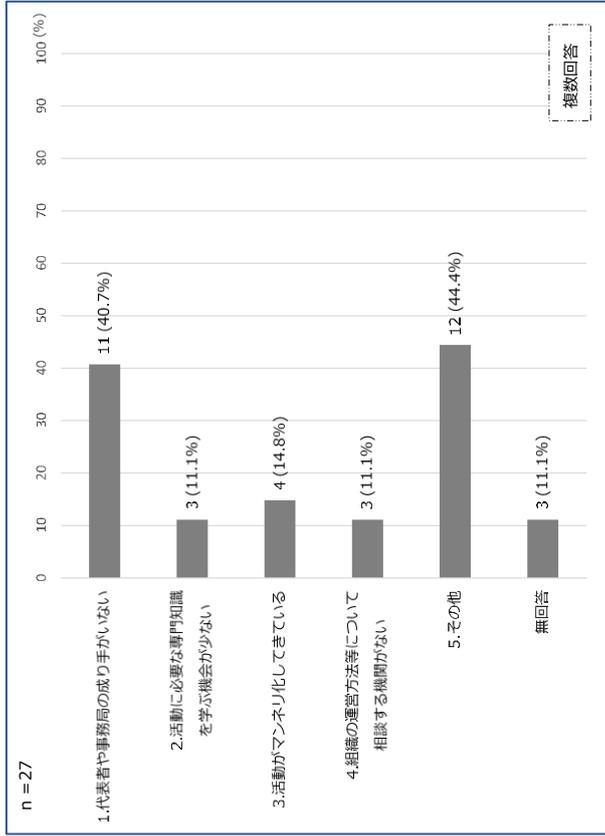
- 収入なし
- 演奏に出たときの報酬、団費
- 行政からの委託金

◆市民活動を活性化するために必要なこと

問 8：団体の活動を進めていく上での悩みや課題について

◎組織運営について

- 「1.代表者や事務局の成り手がいない」が40.7%（11団体）で最も多く、次いで「3.活動がマンネリ化してきている」14.8%（4団体）となっている。

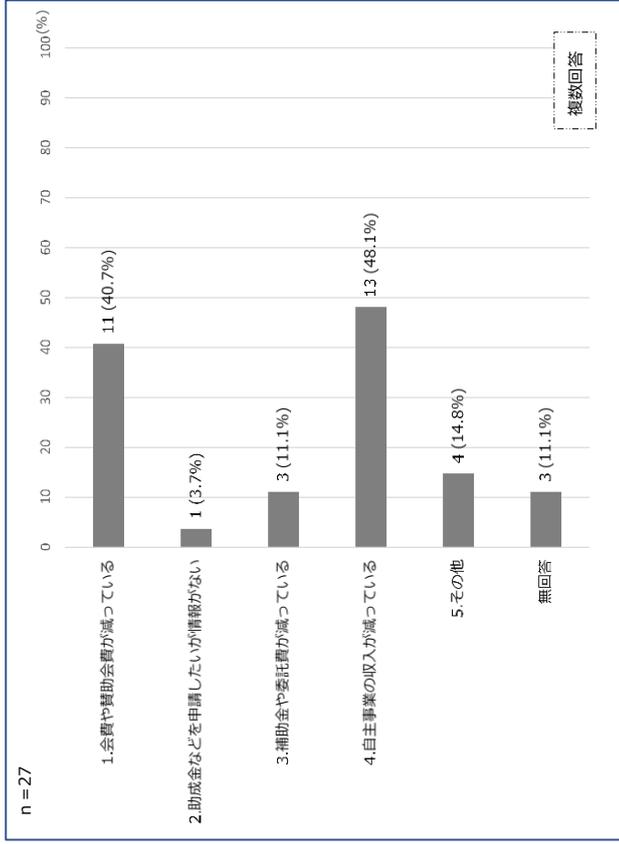


5.その他の回答

- 特になし（5件）
- イベントや本来の活動の交代要員の成り手が少ない
- コロナ感染蔓延延期に活動機会を持っていないこと
- ダンスや歌に使える部屋がコロナにより使えなくなった
- 学校や各公共機関の紹介が少ない
- 財源不足による事務局員の雇用が出来ない
- 委託金以外の活動資金の調達
- 委託費にたよっており継続が難しい

◎活動運営費について

- 「4.自主事業の収入が減っている」が48.1%（13団体）で最も多く、次いで「1.会費や賛助会費が減っている」40.7%（11団体）となっている。

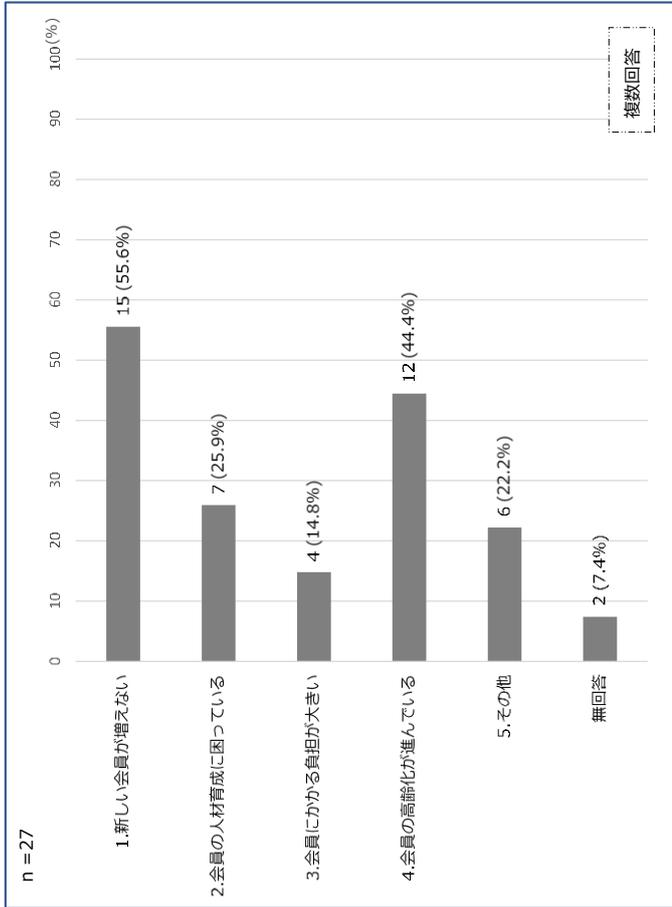


5.その他の回答

- なし
- その時々々の収入にあった活動をする
- 自主事業は行っているが収入としての資金は無い
- 委託費にたよっており継続が難しい

◎ 会員について

- 「1.新しい会員が増えない」が55.6%（15団体）で最も多く、次いで「4.会員の高齢化が進んでいる」44.4%（12団体）となっている。

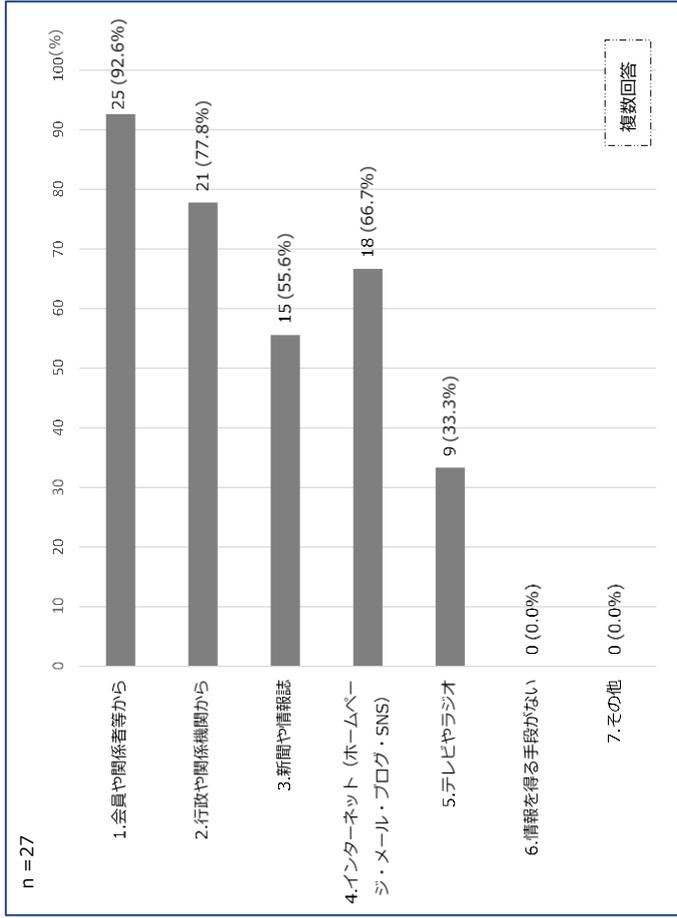


5. その他の回答

- 特になし（2件）
- 独自の育成プログラムを実施する
- 今は活動しずらいため会員を増やす活動をしていない
- 緊急事態宣言が長く新規会員の募集が滞っている
- 特に会員は募っていない

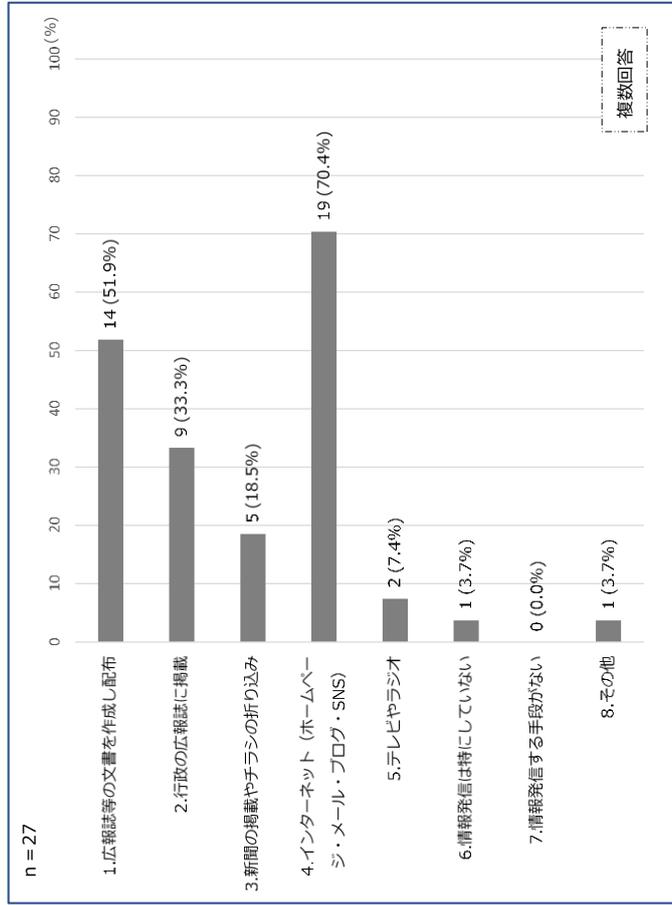
◎ 情報の入手方法について

- 「1.会員や関係者等から」が92.6%（25団体）で最も多く、次いで、「2.行政や関係機関から」が77.8%（21団体）、「4.インターネット（ホームページ・メール・ブログ・SNS）」66.7%（18団体）となっている。



◎情報の発信方法について

- 「4.インターネット（ホームページ・メール・ブログ・SNS）」が70.4%（19団体）で最も多く、次いで、「1.広報紙等の文書を作成し配布」が51.9%（14団体）、「2.行政の広報紙に掲載」33.3%（9団体）となっている。

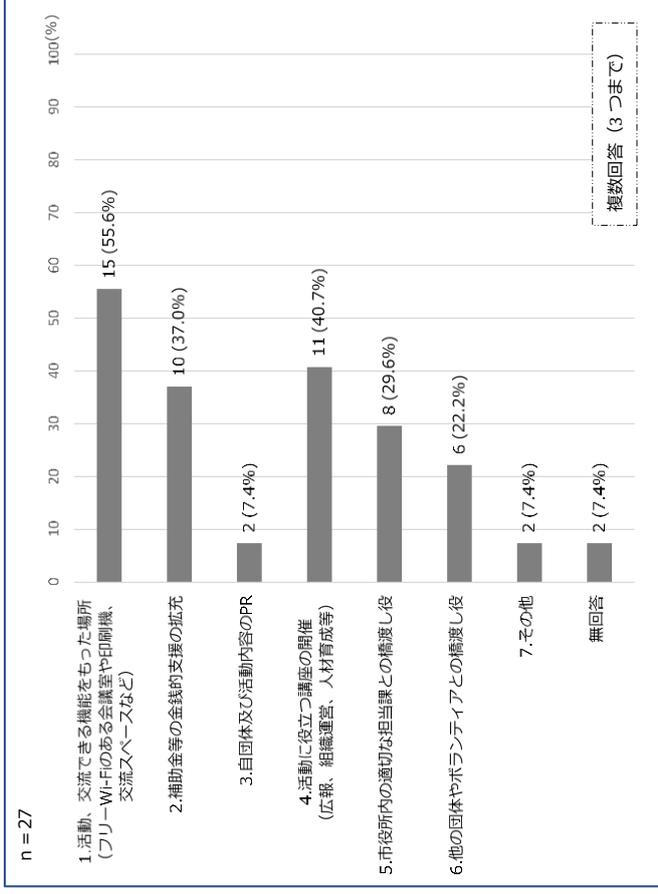


8.その他の回答

- ハカキで発信

問9：団体が浦添市に求める支援について

- 「1.活動、交流ができる機能をもった場所（フリーWi-Fiのある会議室や印刷機、交流スペースなど）」が55.6%（15団体）で最も多く、次いで、「4.活動に役立つ講座の開催（広報、組織運営、人材育成等）」が40.7%（11団体）、「2.補助金等の金銭的支援の拡充」37.0%（10団体）となっている。



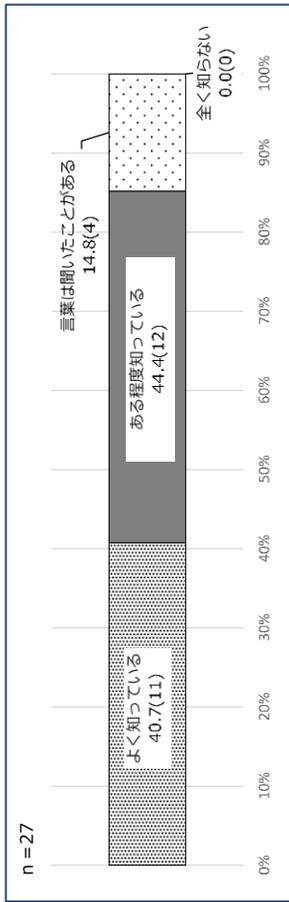
7.その他の回答

- 団体間の情報交流や活動のマッチング機会の創出
- ハーモニースターなど設備の古いところは改修して欲しい

◆ 市民協働のまちづくりについて

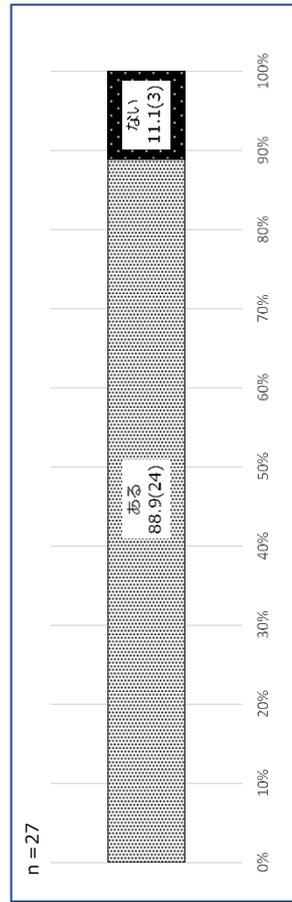
問 10. 「市民協働」という言葉を知っているか

- 「よく知っている」40.7% (11 団体)、「ある程度知っている」44.4% (12 団体) と、約 8 割の団体が認知している。



問 11: 他の団体 (NPO、ボランティア、市民活動団体) や自治会、企業、教育機関 (大学)、市役所との協働について

- 「ある」88.9% (24 団体)、「ない」11.1% (3 団体) と、約 9 割の団体に協働の経験がある。

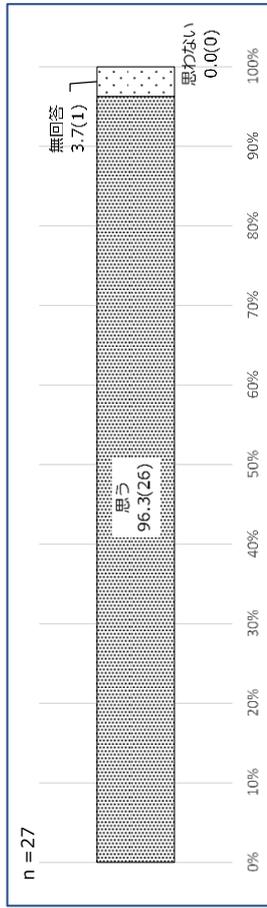


問 12: 問 11 の協働した具体的な内容について

● 南城市市民活動支援センターの運営
● 防災関連の行事への参加
● 広報うらそえを他の団体からの依頼されて音訳している
● 炊き出し、研修会
● 児童家庭課
● 赤い羽根街頭募金やまなびフェスタへの参加、浦安市への派遣
● 浦添市国際交流課、NGO センターおきなわ、琉球大学、仲間自治会、JICA おきなわ、JOCA 沖縄
● 厚生労働省、浦添市、銀行などと一緒に合議体を作り活動している
● 各自治会の祭りに参加
● 浦添市まちづくりプラン賞
● ホランティア連絡協議会との活動
● コロナ禍での食糧支援活動 (令和 3 年月から月 1 回ペースで 8 回実施) 10 回まで開催が決まっている。
● 公民館に菓箱を置かせてもらっている
● 地域活性化にむけて自治会会員、会員外問わず、企業なども呼びかけて行事、活動を行っている。
● 講演会など企画したときの呼びかけの広報等
● 沖縄食料様とお弁当配布をしました。
● 障害者団体との協働で「投票所のバリアフリー」に関する調査やシンポジウムやバリアフリー推進に関する行政や事業者、NPO と連携したソーシャルアクション等
● 琉球大学の研究者と市民団体での環境調査。浦添市防災室と一緒に防災マップに湧き水を記載。自治会からの依頼で湧き水についての勉強会など
● (1) 社員増強に関する活動 (2) 災害救護に関する活動 (3) 青少年赤十字の普及・育成に関する活動 (4) 献血推進及び血液センター業務の援助に関する活動 (5) 浦添地域保健衛生向上のための活動 (7) 社会福祉施設及び医療施設看護法の普及に関する活動 について、市 (保険相談センター・福祉総務課・教育委員会・自治会等) と。

問 13：今後、他の団体（NPO、ボランティア、市民活動団体）や自治会、企業、教育機関（大学）、市役所などと協働してみたいと思うか

- 「思う」96.3%（26団体）と約9割が他団体との協働に興味を示している。

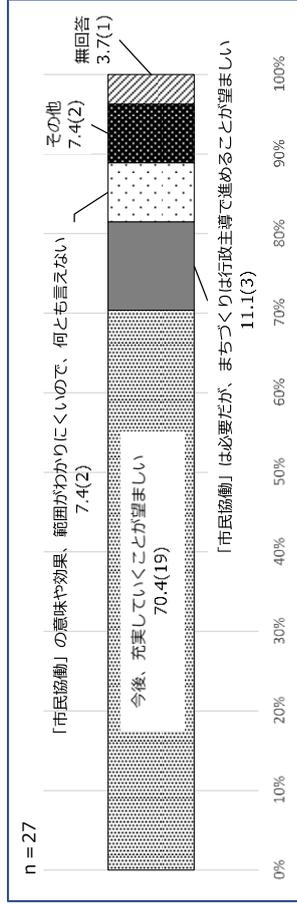


問 14：問 13 の協働してみたい具体的な内容について

● 大学等の研究機関
● SDGs の環境の取り組みを教育機関と実施したい
● 青少年育成に関する事業の実施
● 音訳の依頼があれば可能な限り対応したい
● 研修会、交流の場
● 防災井戸について（市の防災危機管理室）
● 児童関係、教育関係、地域関係
● 自治会などのイベントでコラボできないか
● たくさんの方に演奏を聞いてほしいから
● ニューイヤー祭り
● ミニコンサートの開催、保育所などの演奏
● 教育や福祉
● ボランティア連絡協議会との連携を取り活動を推進していきたい。
● こども食堂のネットワーク活動
● 小学校等に福祉教育として峰の事について教えたりしたい
● 人生100年時代にむけて、元気で明るく過ごせるよう 心身の健康づくり など専門家の指導者とともに明るい地域づくり、社会づくりが出来ると良いですね。

問 15：市民協働によるまちづくりについてどのように考えるか。

- 「今後、充実していくことが望ましい」が70.4%（19団体）と最も多く、次いで、「『市民協働』は必要だが、まちづくりは行政主導で進めることが望ましい」11.1%（3団体）、「『市民協働』の意味や効果、範囲がわかりにくいので、何とも言えない」7.4%（2団体）となっている。

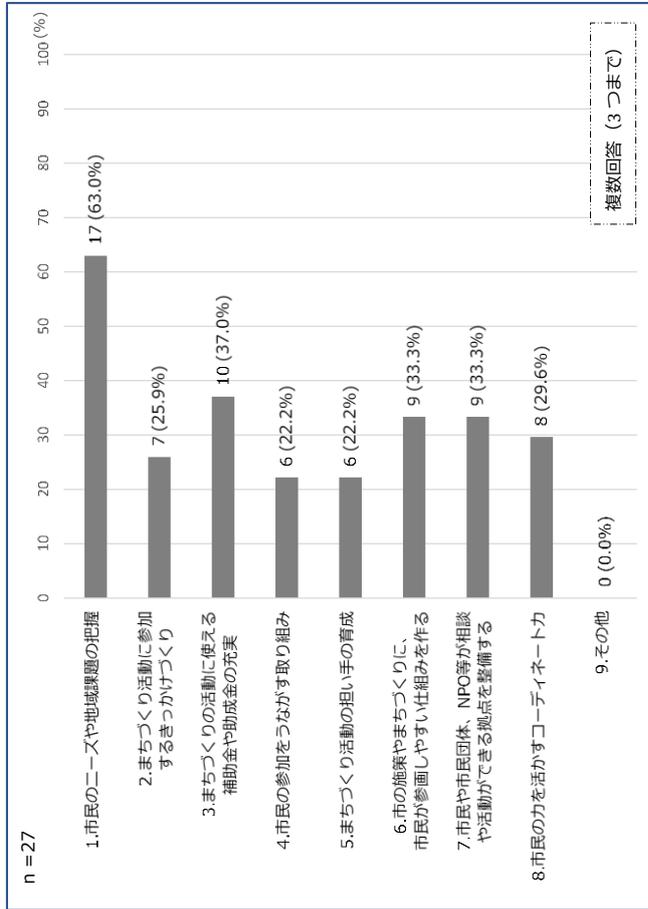


その他の回答

- 市民、企業等民間活動と行政の役割・機能のあり方を検討・協議のうえ、協働のまちづくり政策を進めてほしい。特に行政には人材育成と情報発信に力を入れてほしい
- 社協や行政の担当者が市民活動の傍観者になっているように感じるが、それをもう少し市民に伝えるレベルでサポート体制を整えてほしい
- 行政だけでやる事でもないと思うので、今後何か市民にできることがあればどんどん声をかけて欲しい。

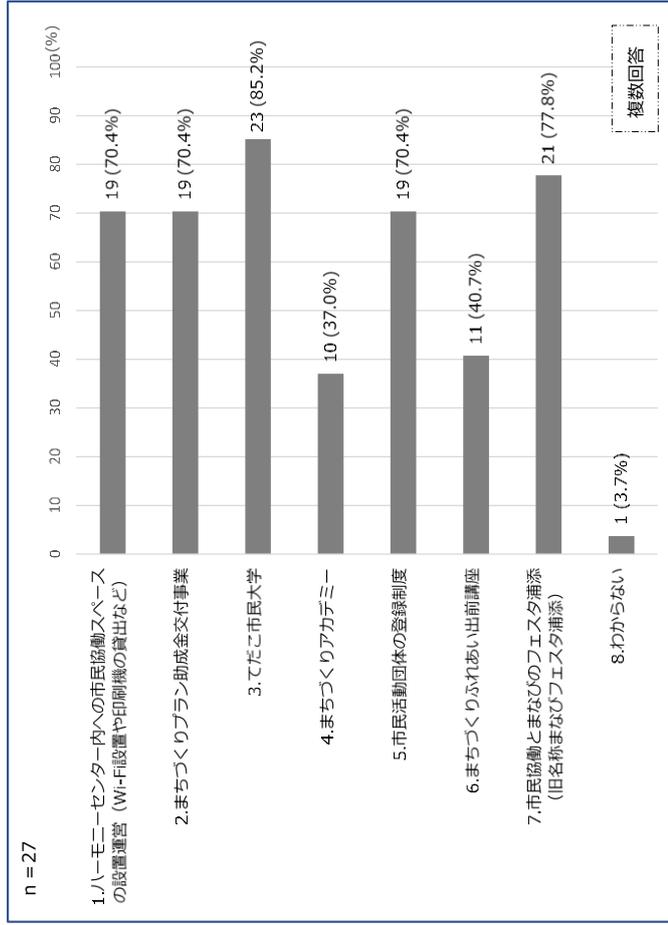
問 16：今後、市民協働のまちづくりを進めていくために、浦添市に期待すること

- 「1.市民のニーズや地域課題の把握」が63.0%（17団体）で最も多く、次いで「3.まちづくりの活動に使える補助金や助成金の充実」が37.0%（10団体）、同率33.3%（9団体）で「6.市の施策やまちづくりに、市民が参画しやすい仕組みを作る」「7.市民や市民団体、NPO等が相談や活動ができる拠点を整備する」となっている。



問 17：浦添市が実施する事業の認知度について

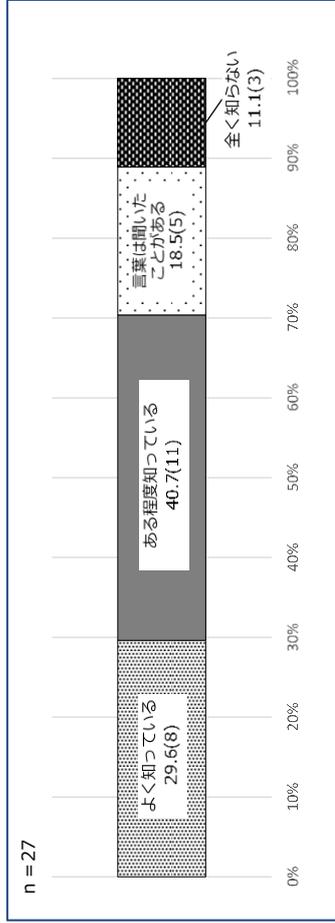
- 最も認知度が高いのが「3.てだこ市民大学」85.2%（23団体）、次いで「7.市民協働とまなびのフェスタ浦添（旧名称まなびフェスタ浦添）」77.8%（21団体）となっている。



◆ まちづくり生涯学習について

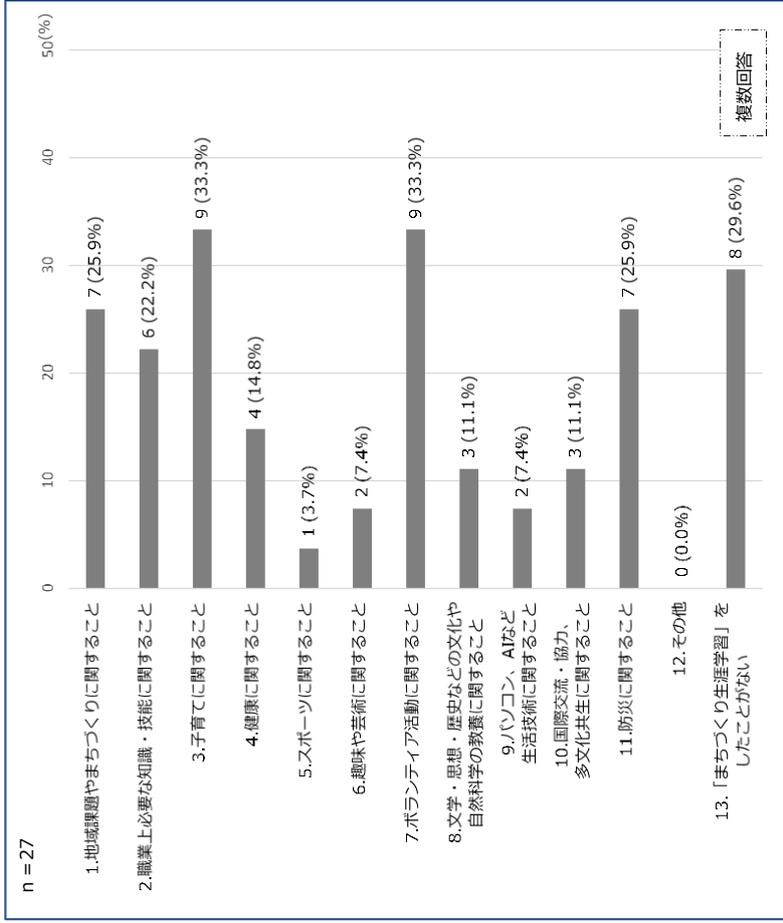
問 18: 「まちづくり生涯学習」という言葉を知っているか。

- 「よく知っている」29.6% (8 団体)、「ある程度知っている」40.7% (11 団体)と、約8割の団体に認知されている。
- 一方、約1割の団体が「全く知らない」と回答している。



問 19: この1年くらいの間に団体として行った「まちづくり生涯学習」について

- 活動を行った団体の中では、「3.子育てに関すること」及び「7.ボランティア活動に関すること」がそれぞれ33.3% (9 団体)と最も高くなっている。次いで「1.地域課題やまちづくりに関すること」及び「11.防災に関すること」がそれぞれ25.9% (7 団体)となっている。
- 「13.まちづくり生涯学習をしたことがない」と回答した団体は29.6% (8 団体)となっている。



3. 各課の主な生涯学習講座等の状況

分野	主な講座等の内容	所管課
①まちづくり生涯学習	<ul style="list-style-type: none"> ・てだこ市民大学 	市民協働・男女共同参画課
②社会教育	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館講座 ・自治公民館講座 ・暮らしに役立つ図書館講座 ・自主企画まなび助成制度 	社会教育推進課
③子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> ・地域子育て支援事業、認定こども園子育て支援事業 ・ファミリーサポートセンター養成講座 ・マタニティスクール・ベビースクール ・思春期教育事業 	こども未来課 こども家庭課
④青少年健全育成	<ul style="list-style-type: none"> ・こども会リーダー「舎内学級・野外学級・ジュニアリーダー学級」 ・少年の主張大会 ・中国泉州市小中学生交流事業 ・CGG 運動 	こども青少年課
⑤高齢者の生きがい・健康	<ul style="list-style-type: none"> ・かりゆしセンター・老人福祉センター・地域福祉センターにて講座 ・介護予防事業 ・てだこ学園大学院 	いきいき高齢支援課 社会教育推進課
⑥男女共同参画・性の多様性の尊重	<ul style="list-style-type: none"> ・男女共同参画講座 ・性の多様性研修、講座等 	市民協働・男女共同参画課
⑦国際交流と多文化共生・平和	<ul style="list-style-type: none"> ・国際交流協会による講座 ・英語のおはなし会 ・やさしい日本語交流 ・平和交流事業等 	国際交流課
⑧安心・安全	<ul style="list-style-type: none"> ・救急法講習 ・ゲートキーパー養成講座（自殺対策） ・自殺対策普及啓発講演会 ・こころの健康講演会 ・健康講演会 ・防災訓練等 ・手話奉仕員養成講座 ・要約筆記奉仕員養成講座 ・点訳ボランティア養成講座 ・音訳ボランティア養成講座 ・認知症サポーター養成講座 	消防総務課 健康づくり課 防災危機管理課 障がい福祉課 いきいき高齢支援課

⑨環境	<ul style="list-style-type: none"> ▶てだこ環境プランナー養成講座 ▶環境学習講座 	環境保全課
⑩職業能力向上	<ul style="list-style-type: none"> ▶創業支援セミナー等 	産業振興課
⑪文化芸術	<ul style="list-style-type: none"> ▶おでかけワークショップ ▶村まわり組踊 ▶気軽にクラシックコンサート ▶サン・アビリティーズうらそえでの文化芸術活動の推進 	文化スポーツ振興課 障がい福祉課
⑫スポーツ	<ul style="list-style-type: none"> ▶各種スポーツ教室を開催 ▶学校体育施設開放事業 ▶サン・アビリティーズうらそえにて各種大会、教室 	文化スポーツ振興課 障がい福祉課
⑬歴史・伝統文化	<ul style="list-style-type: none"> ▶史跡巡り ▶歴史講演会 ▶発掘調査現場見学会 ▶歴史ガイド養成講座 ▶美術館常設展講座・実習教室・体験教室 ▶沖縄学講座 	文化財課 社会教育推進課

(令和4年度現在)

4. 計画の策定経過

日 程	会 議 等
令和3年11月11日～ 令和3年12月31日	市民アンケート実施
令和3年11月10日～ 令和3年12月31日	団体アンケート実施
令和4年7月5日	第1回浦添市まちづくり生涯学習推進本部幹事会 ・第五次浦添市まちづくり生涯学習推進計画（素案）について
令和4年7月28日	第1回浦添市まちづくり生涯学習推進協議会 ・第五次浦添市まちづくり生涯学習推進計画（素案）について
令和4年9月5日	第2回浦添市まちづくり生涯学習推進協議会 ・第五次浦添市まちづくり生涯学習推進計画（素案）について
令和4年10月31日	第1回浦添市まちづくり生涯学習推進本部 ・第五次浦添市まちづくり生涯学習推進計画（素案）について
令和4年11月1日～ 令和4年11月30日	意見公募（パブリックコメント）実施 ・第五次浦添市まちづくり生涯学習推進計画（案）について
令和4年12月19日	第2回浦添市まちづくり生涯学習推進本部幹事会 ・第五次浦添市まちづくり生涯学習推進計画（案）について
令和5年1月13日	第3回浦添市まちづくり生涯学習推進協議会 ・第五次浦添市まちづくり生涯学習推進計画（案）について
令和5年1月20日	浦添市まちづくり生涯学習推進協議会より市長へ答申
令和5年1月30日	第2回浦添市まちづくり生涯学習推進本部 ・第五次浦添市まちづくり生涯学習推進計画（案）について

5. 浦添市まちづくり生涯学習推進協議会委員名簿

任期：令和4年7月1日から令和6年6月30日

敬称略

	氏名	所属	区分
1	はたなか ひろし 畑中 寛	琉球大学	学識経験を有する者
2	しまだ しょうとく 島田 尚徳	沖縄大学	
3	ながはま きょうこ 長濱 京子	浦添市立中央公民館	関係教育機関に属する者
4	しんざと けんご 新里 健吾	ANA SPORTS PARK 浦添	
5	やまぐち まさき 山口 将紀	アイム・ユニバース てだこホール	関係団体に属する者
6	いなふく じゅんこ 稲福 淳子	社会福祉法人 浦添市社会福祉協議会	
7	たいら さとぎ 平良 理揮	NPO 法人パラダイム	
8	やべ ゆうじろう 矢部 優慈郎	独立行政法人 国際協力機構沖縄センター（JICA 沖縄）	
9	ぐし ともこ	湧き水 fun 倶楽部	
10	おおしろ あかり 大城 朱加莉	学校法人湘央学園 浦添看護学校	

6. 用語解説（アルファベット順／五十音順）

シーエスアール

C S R (Corporate social responsibility)

企業の社会的責任。本計画では、企業の自発的な社会貢献活動をさす。

アイシーティー

I C T (Information and Communication Technology 情報通信技術)

情報処理や通信に関連する技術

エヌピーオー

N P O (Nonprofit Organization 特定非営利活動)・**N P O 法人** (特定非営利活動法人)

NPOとは、さまざまな社会貢献活動を行い、団体の構成員に対し収益を分配することを目的としない団体の総称。

NPO法人は、特定非営利活動促進法に基づき法人格を取得した法人のこと。

エヌピーオー

エスエヌエス

S N S (Social Networking Service)

人と人との間のコミュニケーションを促進し、インターネット上で社会的なネットワークの構築を支援するサービスのこと。

教育基本法第3条（生涯学習の理念）

国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない。

教育協働

学校・家庭及び地域住民等がそれぞれの役割と責任を自覚して、地域におけるあらゆる教育活動の力や成果を結集させることを目的とした取り組みのこと。

とりわけ、学校教育と社会教育の緊密な連携・協力が求められ、学校・家庭・地域が連携協働し、多様な教育課題の解決に向けて進めていくものである。

市民活動団体

不特定かつ多数のものの利益の増進に寄与することを目的として、社会貢献活動を行う団体

社会教育

学校教育法に基づき、学校の教育課程として行われる教育活動を除き、主として青少年及び成人に対して行われる組織的な教育活動（体育及びレクリエーションの活動を含む）のこと。社会において行われる教育。

社会教育施設

公民館・図書館・美術館・博物館・体育館・青少年の家等の公共施設で、社会教育法の適用を受ける施設。

人生 100 年時代

医療体制の充実、医学の進歩、生活水準の向上等により、平均寿命は著しく伸長し、人生 100 年時代の到来が予測されている。今後、生涯に二つ、三つの仕事を持つことや、働きながら、また引退後にボランティア等により地域や社会の課題解決のために活動することなどがより一般的になると考えられる。

多文化共生

国籍等の異なる人々が、互いの文化的差異を認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと。

ライフキャリア

キャリアは経歴を表し、ライフキャリアは人生における経歴一般をさす。

仕事、家族形成、社会活動など人生のさまざまな役割、環境、出来事の相互作用によって形作られるもの。

ライフデザイン

人生のデザイン（設計、構想）をさす。長寿社会の到来は、高齢者だけに限らず、すべての世代の人々が、長寿という新たな社会を生き抜くことを意味しており、それぞれが人生 100 年時代を想定し、自らの人生設計をどうするのかを積極的に考えていく必要がある。

リカレント教育

学校を卒業し、社会人となった後も、大学等で更に学びを重ね、新たな知識や技能を身に付けること。出産や子育てなど女性のライフステージに対応した活躍支援や、若者の活躍促進に加え、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大による産業構造の変化等に対応する観点からも、社会人の学び直し（リカレント教育）の推進がより一層重要となっている。

リスキリング

新しい職業に就くために、あるいは、今の職業で必要とされるスキルの大幅な変化に適應するために、必要なスキルを獲得する/させること （経済産業省/リカレントワークス研究所）

※文部科学省 HP/全国各市町村 HP 等を参考に事務局が作成

第五次浦添市まちづくり生涯学習推進計画

発行：浦添市 市民部 市民協働・男女共同参画課
(浦添市市民協働・男女共同参画ハーモニーセンター)

住所：〒901-2114
沖縄県浦添市安波茶二丁目3番5号

電話：098-874-5711 (直通)

発行年月：令和5(2023)年3月

